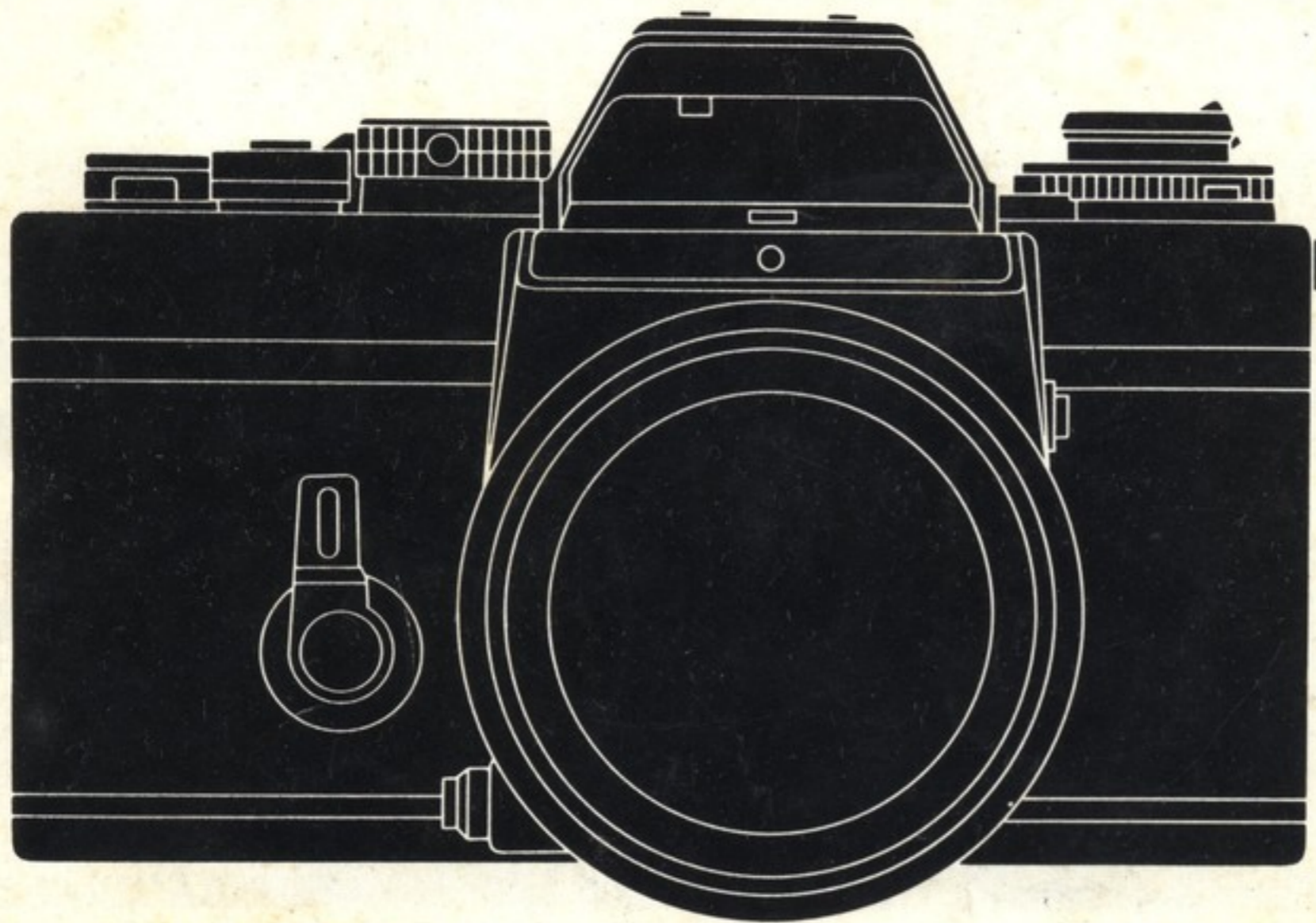


MINOLTA XE



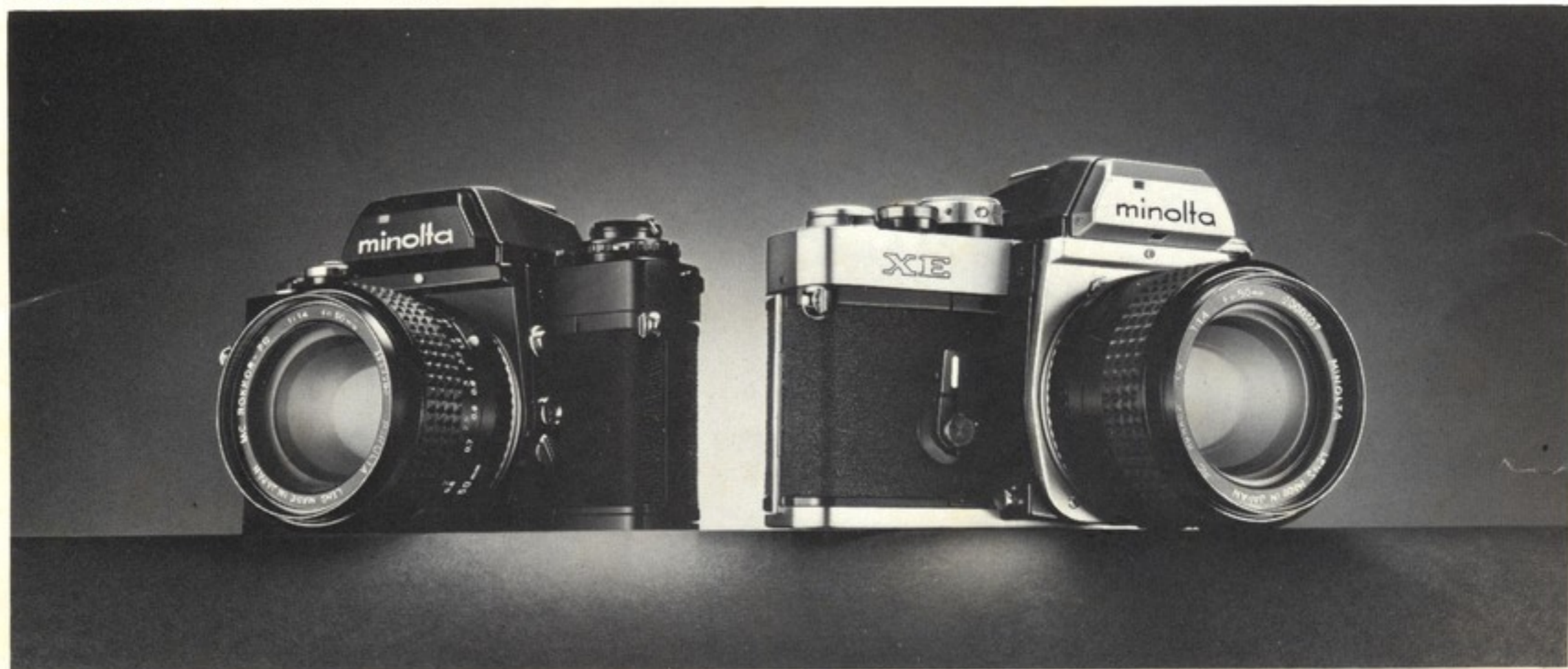
使用說明書

お買上げありがとうございます。
ミノルタX Eは、さきにミノルタX
-1で確立した完全電子露出制御シ
ステムを導入し、撮影情報がもり込
まれた情報集中ファインダー、更に
高性能の新シャッターを採用した、
A E式高級一眼レフカメラです。

また本機は、ミノルタ一眼レフライ
ンに継承されているミノルタマウ
ントを採用していますので、従来の交
換レンズやアクセサリーがそのまま
使用できます。
ご使用になる前に、使用説明書をよ
くごらんになってミノルタX Eの機

能を十分ご活用ください。

この使用説明書は、F1.4レンズ
付の説明になっていますがF1.2
F1.7の標準レンズをお求の方も
使用方法は同じです。



目次

主な特長	4	ピントの合わせ方	24
主な性能	6	シャッターリリースについて	25
各部名称	8	絞り効果の確認	26
●カメラ操作編〈撮影の準備から完了まで〉		フィルムの巻戻し	28
銀電池を入れます	11	●実技応用編〈ハイレベルのあなたのために〉	
撮影の手順(自動露出撮影のとき)	12	自動露出撮影(AUTO撮影)	30
●基本操作編〈よりカメラを理解するために〉		自動露出のレベルを変えたい場合	32
ストラップ・ケースについて	15	多重露光撮影	34
使用電池と電池のチェック	16	交換レンズについて	36
レンズの着脱	17	セルフタイマーの使い方	38
メインスイッチについて	18	フラッシュ撮影の仕方	40
フィルムの入れ方	18	接写・複写・顕写について	42
フィルム感度のセット	20	フィルターの使い方	44
シャッタースピードダイヤルの操作	22	赤外線撮影(赤外線マークについて)	45
ファインダーについて	23	ミノルター眼レフシステムチャート	46
		●知っておくと良いこと	
		カメラの保存と手入れ	49
		電池の耐寒性	50
		アフターサービスのご案内	51
		各地サービスステーション	53

主な特長

1. すぐれた電子露出制御システム

ミノルタX-1で確立した電子自動露出制御システムを本機にも導入し、低電圧、少消費電流で高精度、広使用領域をカバーしています。また、耐温、耐湿特性も満足し、一般撮影から特殊撮影に至るまで十分満足できる露出性能を維持しています。

- (1) 絞り優先式の完全自動露出
- (2) モノリシックICによる記憶回路と制御回路の働きにより、4秒～1/1000秒まで連続無段階で自動露出撮影が可能。
- (3) 測光方式は、ミノルタ独自の分割測光。
- (4) 消費電流は、極めて少なく低温時でも正確に作動。
- (5) 電源は、銀電池1.5V (JIS G-13)を使用。

2. 高性能の新シャッター採用

このシャッターは、高精度で耐久性にすぐれた金属幕縦走りシャッターで、作動音も小さく、また、小型で、一眼レフカメラへの組込みも容易です。なお、このシャッターの基本型は、西独ライツ社で開発され、コバル社が自己の経験とオリジナルアイデアを加味して設計を完了したものです。ミノルタは、この間、ライツ社並びにコバル社とそれぞれに結んだ契約に基づき、このシャッターの完成に全面的に協力助勢いたしました。

3. 完成された情報集中ファインダー

- (1) ファインダーのピント合わせは、中央部分がスプリット式、その周辺がマイクロプリズム式、さらにその周囲はマット式と三方式のピント合わせが可能。

- (2) ファインダー内にシャッタースピード表示、絞り値、メーター情報を集中。

- (3) マニュアル操作時に、設定したシャッタースピードが絞り値と共にファインダー内に表示されるので、メーター指示を利用した露出合わせも可能。

4. 不変のミノルタマウント

ミノルター眼レフラインに伝統的に継承されているミノルタマウントを採用、従来の交換レンズ、アクセサリーも使用できます。

- (1) 16mmの魚眼レンズから1600mmの超望遠レンズまで、30余本のロッキールレンズ群や撮影分野をさらに拡大する150種におよぶアクセサリー類がそのまま使用できる。
- (2) ワンタッチで迅速確実なレンズ交換ができ、MCロッキールレンズ

は、開放測光で自動露出機構に完全に連動。

MC以外のロッドコールレンズも絞り込み測光で自動露出撮影ができる。

5. イージーオペレーションの追求

操作性の向上と撮影ミス防止の安全装置など、使用者の立場に立った設計、製作上の工夫が加えられています。

- (1)多重露光レバーの操作により、フィルムカウンターはそのままで多重露光が可能。
- (2)露出補正リングにより、標準値より各2EVの範囲でオーバー、アンダーの撮影が可能。
- (3)シンクロ接点は1ターミナル、FP、X切換式で、アクセサリシューはホットシュー付。
- (4)セルフタイマーは、時間可変式

(約6秒～約10秒)オートにて使用可能。

- (5)アイピースからの逆入光をカットするアイピースシャッター付。
- (6)大型ミラー採用によるミラー切れの少ないファインダー光学系。
- (7)ミノルタ独自のフィルムシグナルにより、フィルムの装填、巻取り、巻戻しが確認できる。
- (8)メインスイッチがOFFの時は、シャッターボタンがロックされる。
- (9)電源警告装置により、電池電圧の低下、電池の入れ忘れなどの場合ミラーアップになり警告。
- (10)X (1/90秒)、B (バルブ) はメカニカルシャッターで電池がなくても使用可能。
- (11)フィルム感度ダイヤル、露出補正リング、シャッタースピードダイヤルのAUTO位置などに安全ロ

ック装置付。

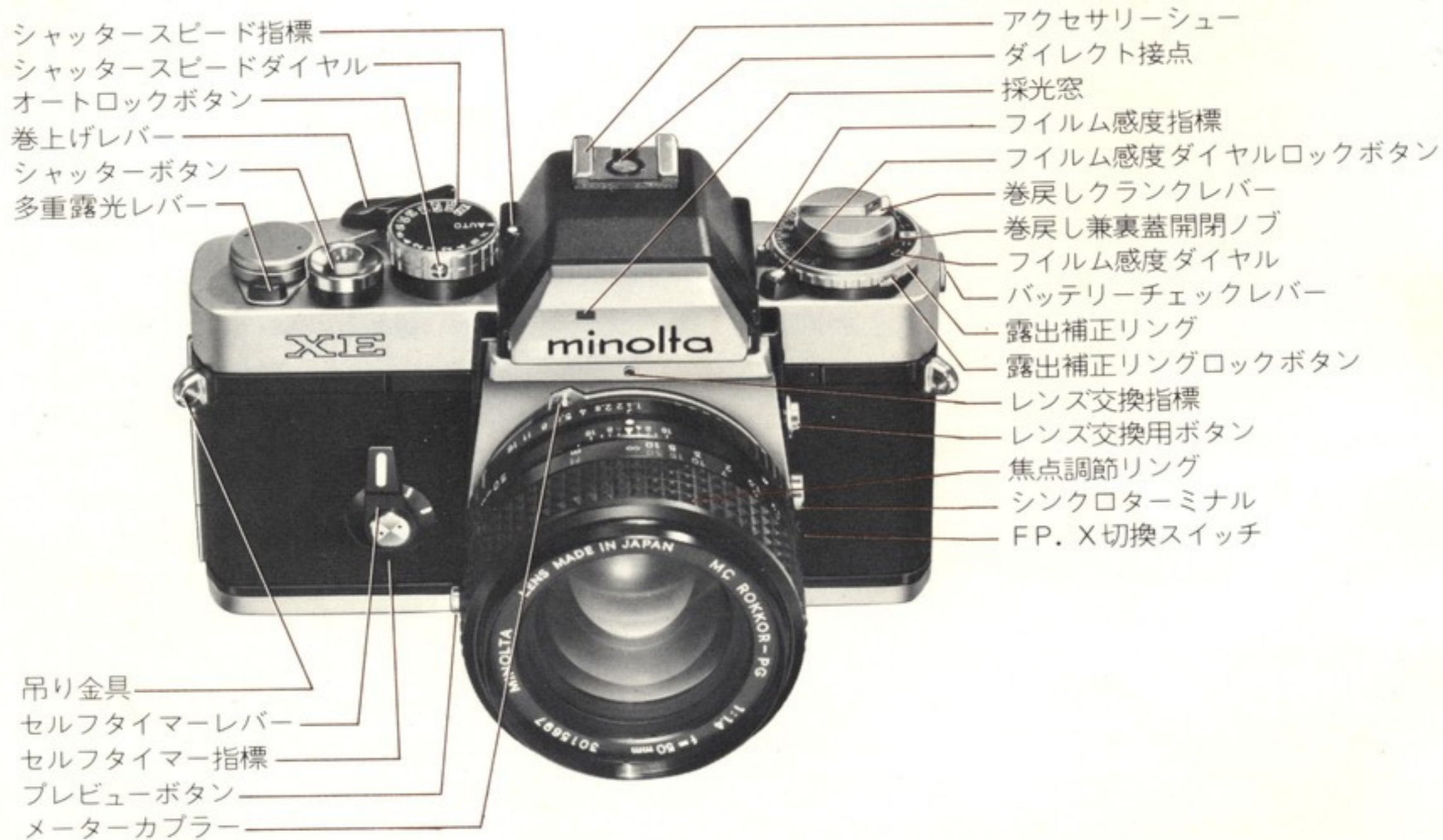
- (12)裏蓋にメモホルダーが取付けてあり、フィルム箱の蓋などを入れると装填フィルムが一目でわかる。
- (13)軽くてスムーズなフィルム巻上げ。巻上げ角は130°、予備角30°。

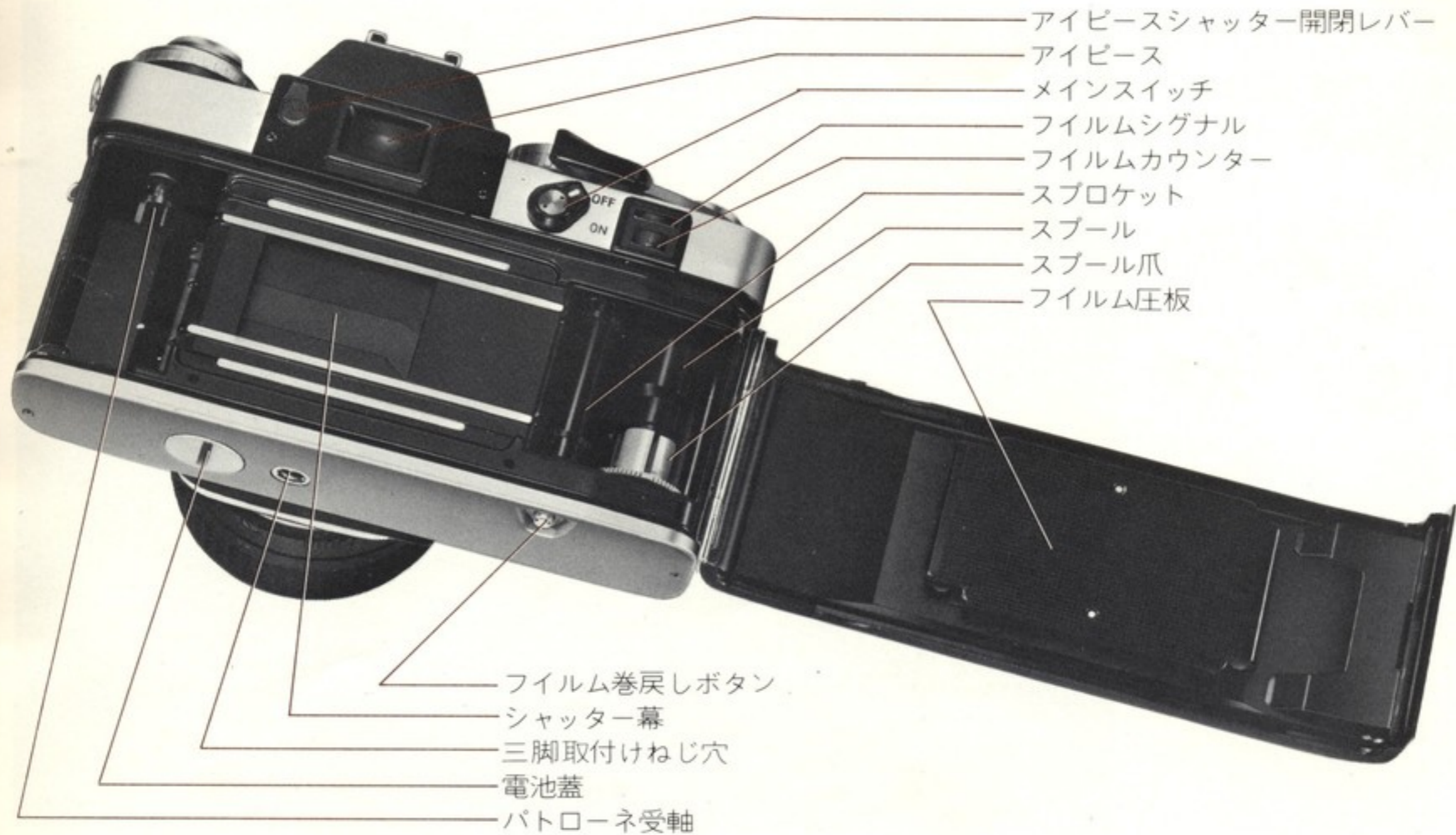
主な性能

型 式	電子自動露出制御式35mm一眼レフ フォーカルプレーンシャッターカメラ	フィルム感度範囲	ASA12~ASA3200
画面サイズ	24×36mm	シャッター	電子制御式、メタルフォーカルプ レンシャッター（縦走り）
レンズマウント	ミノルタマウント	シャッタースピード	オート：4秒~1/1000秒（無段階） マニュアル：4、2、1、1/2、1/4、1/8、 1/15、1/30、1/60、1/125、1/250、 1/500、1/1000（秒） メカニカル：X（1/90秒）、B（バル ブ）、機械制御式で電池がなくて も使用可能
標準レンズ	MC ロッコール58mm F1.2、50mm F1.4、50mm F1.7	セルフタイマー	内蔵、6秒~10秒作動時間可変式 別ボタンスタート
フォーカシングスクリーン	スプリットマイクロプリズム式	露出補正装置	標準値より各2EVの範囲でオー バー、アンダーの撮影が可能。
ファインダー視野率	94%（標準画面24×36mmに対して）	フラッシュシンクロ	FP、X接点、1ターミナル切換式
ファインダー倍率	0.84（f=50mm ∞の場合）		
ファインダー内表示	シャッタースピード目盛、メータ ー指針、絞り目盛、シャッタース ピードダイヤル目盛		
測光方式	開放測光TTL、分割測光		
自動露出範囲	EV1~EV17（ASA100、F1.2 レンズ付）		

	ストロボ: X(1/90秒)より低速度に同調	裏蓋開閉	巻戻しノブ引上げ式、ワンタッチロック式
シンクローターミナル	FP級フラッシュバルブ:全速度同調 JIS-B型ソケット(プラグ抜止めねじ付)	電池	銀電池1.5V(JIS G-13)2個、メインスイッチ付、ランプ式バッテリーチェッカー付、電源警告装置付
アクセサリシュー フィルム巻上げ	ホットシュー(感電防止付) 一作動レバー巻上げ式、巻上げ角130°、予備角30°	安全ロック	メインスイッチOFFでのシャッターボタンロック、シャッタースピードダイヤルオート位置、フィルム感度ダイヤル、露出補正リング標準位置
フィルムカウンター	自動復元順算式(多重露光の場合は進まず)	その他	アイピースシャッター付、メモホルダー付、フィルムシグナル付(SLS式)
フィルム巻戻し	巻戻しボタンによる巻戻しクランク方式、巻戻しボタン自動復元	大きさ・重量	148(巾)×97(高さ)×61(奥行)mm、775g(ボディのみ)
多重露光	ボディ上部の多重露光レバーの操作により可能で自動復元式		
ミラー	クイックリターン式大型ミラー		

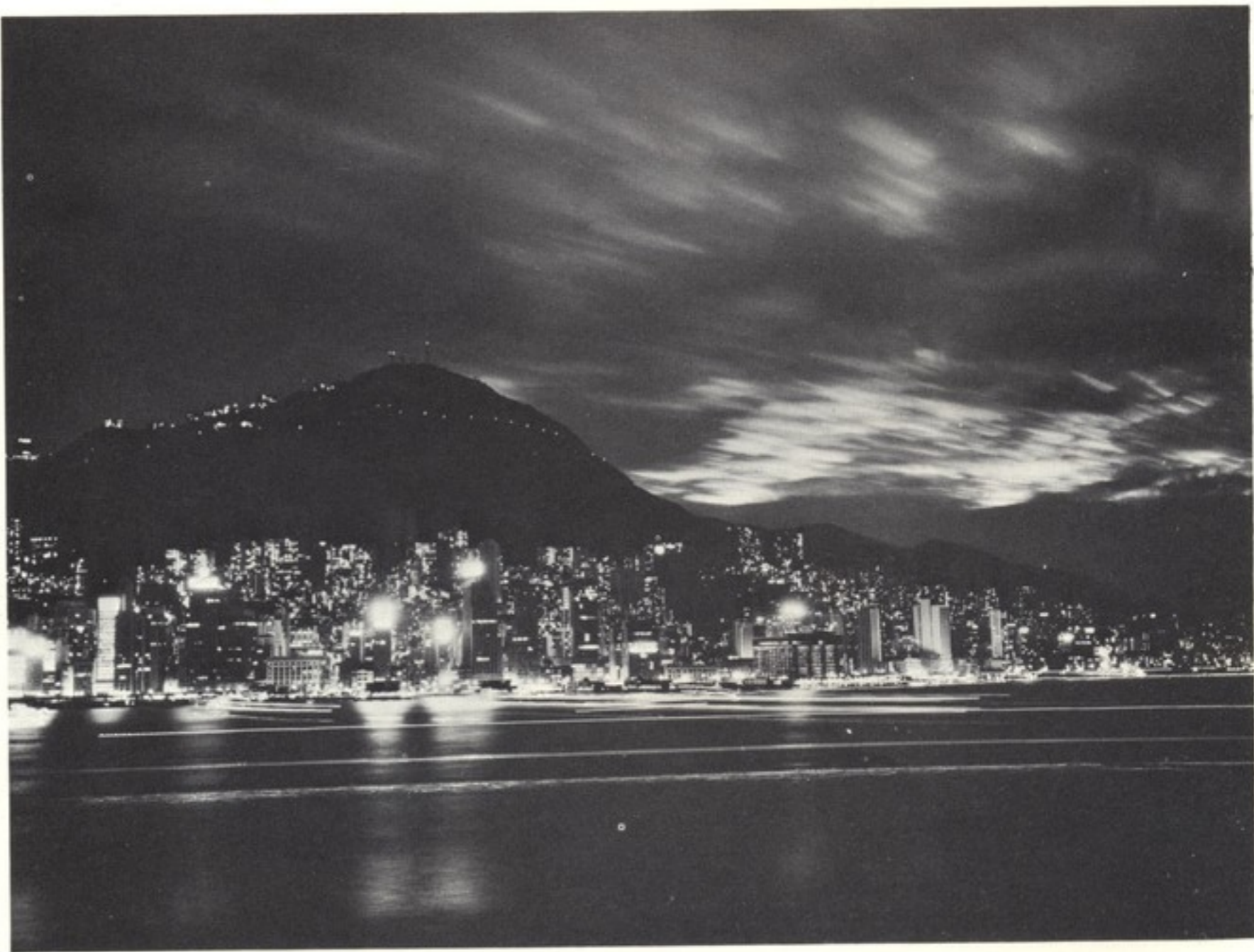
各部名称





カメラ操作編

撮影の準備から
完了まで



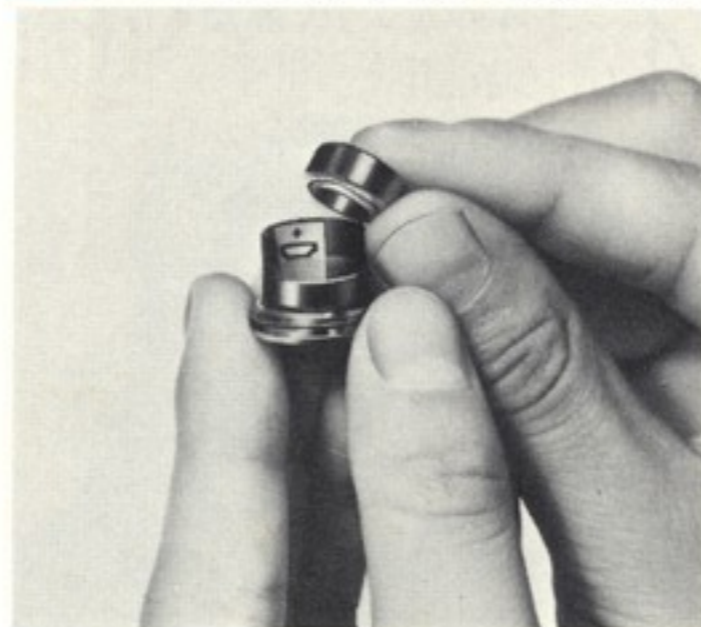
銀電池を入れます

まず電池室に銀電池 (JIS G-13型1.5 V、2個) を入れます。

- 1 電池蓋を取りはずします。
電池蓋はコイン等で反時計方向に回すとはずれます。



- 2 電池蓋に銀電池 (2個) を電池蓋の極性表示に従って入れます。



注意

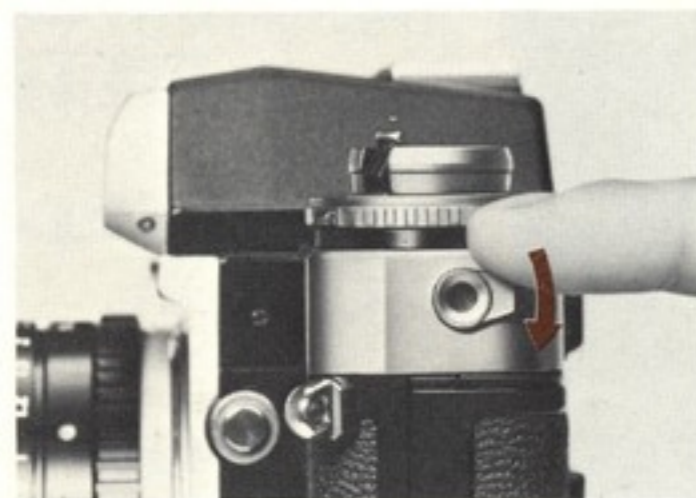
- ★電池を入れるとき、電池の表面に汗や脂をつけないようにしてください。汚れたまま使用すると接触不良の原因になります。
- ★電池を入れるとき、極性を間違えないようにしてください。

- 3 電池蓋を電池室に取付けます。

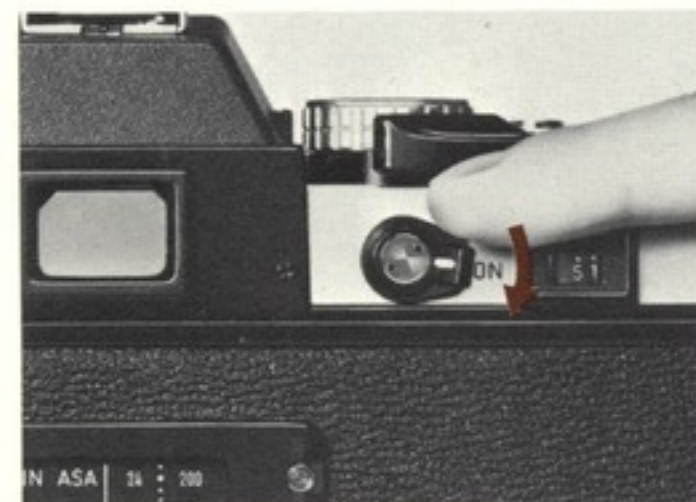


撮影の手順 (自動露出撮影のとき)

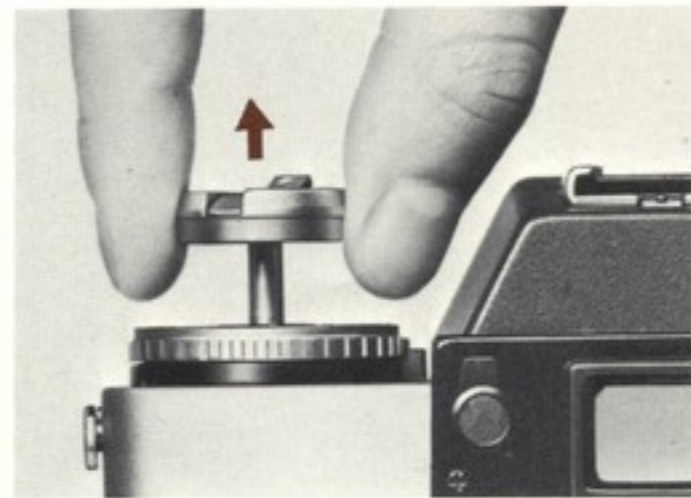
- 1 バッテリーチェックをする。
(P16参照)



- 2 メインスイッチをONにする。
(P18参照)



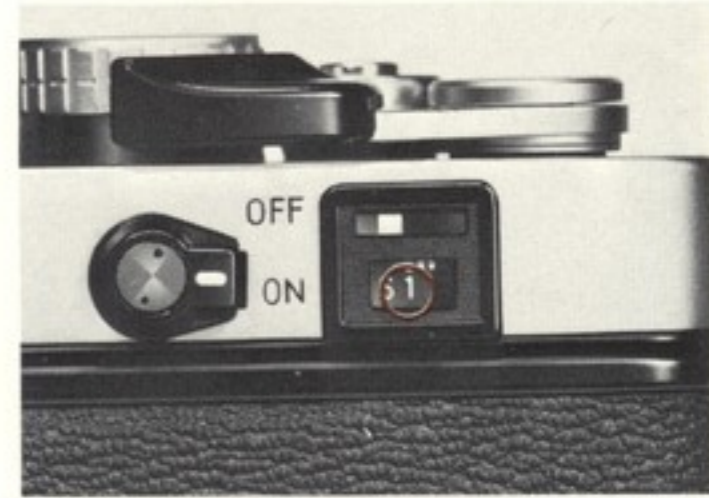
- 3 裏蓋を開ける。
(P18参照)



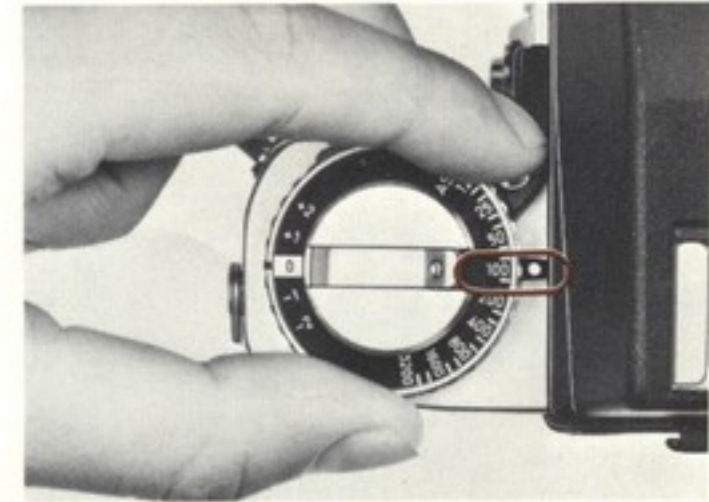
- 4 フィルムを入れ、裏蓋を閉じる。
(P19参照)



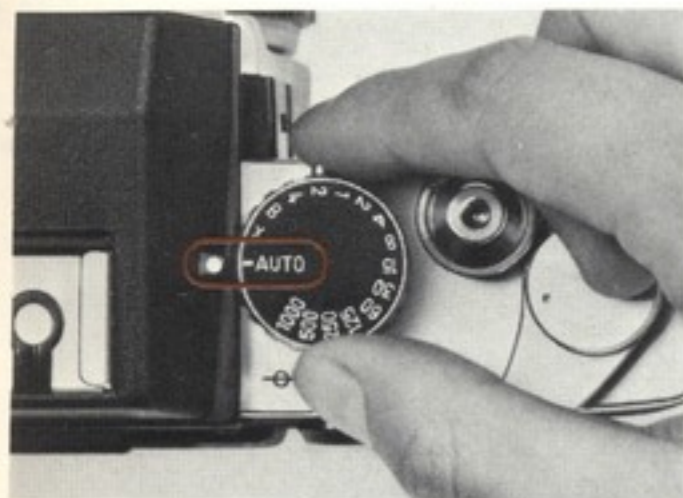
- 5 カウンターを1にする。
(P19参照)



- 6 フィルム感度を合わせる。
(P20参照)



7 シャッタースピードダイヤルを
AUTOにする。(P22参照)



9 ピントを合わせる。
(P24参照)



11 フィルムを巻戻し、フィルムを
取り出す。(P28参照)



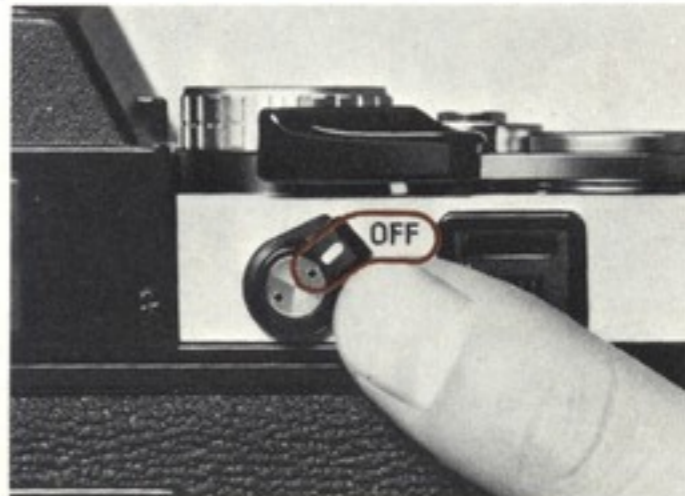
8 絞り値をセットする。
(P23参照)



10 シャッターを切る。
(P25参照)



12 メインスイッチをOFFにする。
(P18参照)



● 取扱いの詳細は各参照ページをご覧ください。

基本操作編

よりカメラを
理解するために



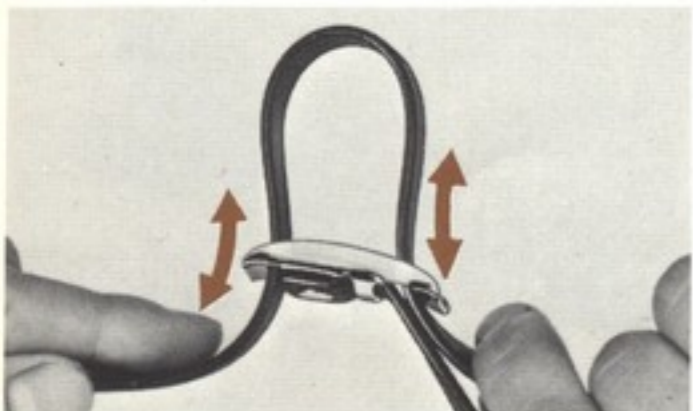
ストラップ・ケースについて

1. ストラップの取付け方

- カメラに取付けられた三角環にストラップを通し、そのストラップの先をボタンで止めます。



- ストラップの長さは、肩から下げ易い長さに調節します。



2. ケースの取付け方

- ケースはケース止めねじを使ってしっかりとカメラに固定します。



- ケースの前カバーを取りはずすときは一度矢印の方向に上げてから、引っぱるとはずれます。

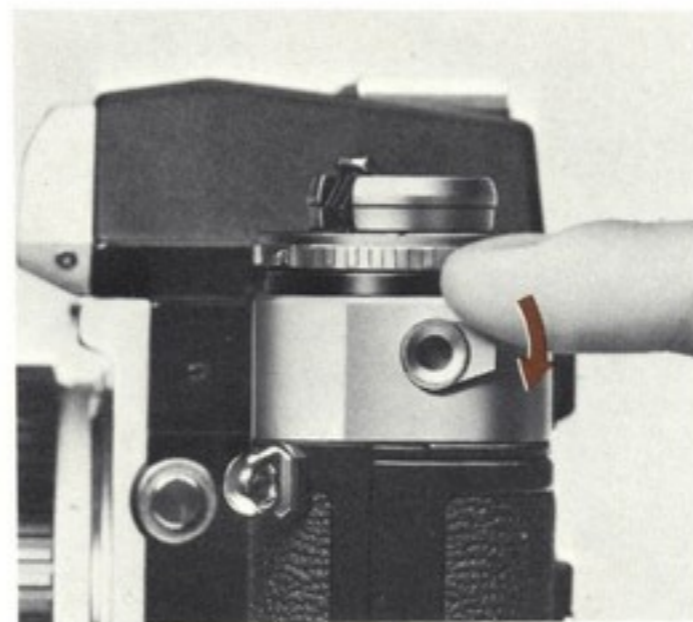
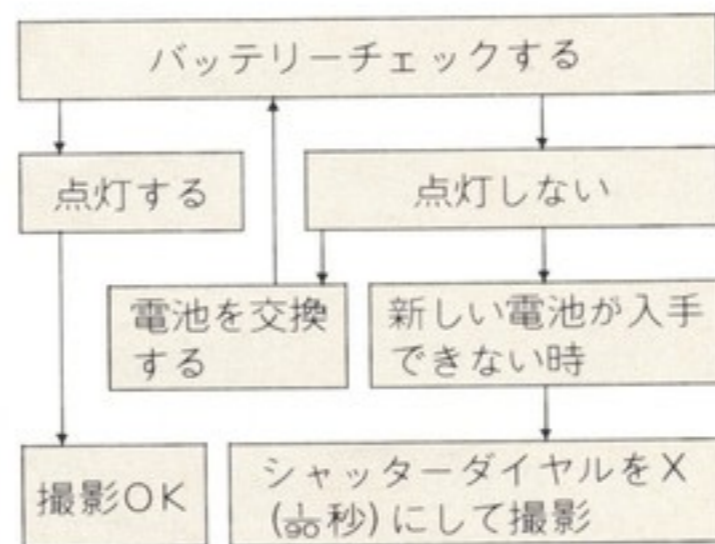


使用電池と電池のチェック

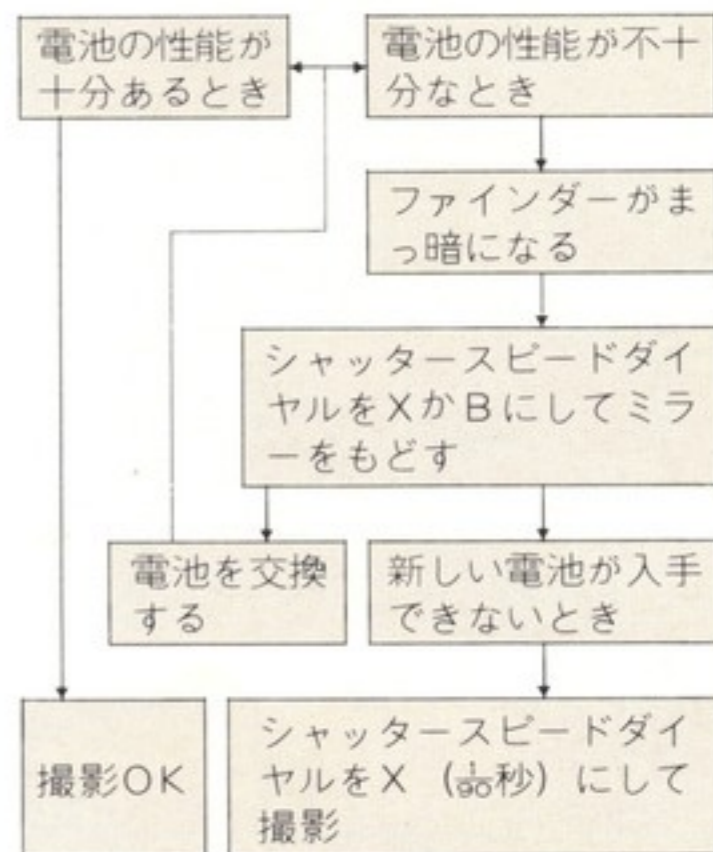
使用電池は銀電池(JIS G-13型1.5V) 2個を用います。この電池はシャッター制御、自動露出機構、および露出計の共通電源です。



- 撮影前に次に説明する方法で電池の性能テスト(バッテリーチェック)をするように心がけてください。バッテリーチェックは、バッテリーチェックレバーを矢印の方向に回し、バッテリーチェックランプが点灯するか、しないかを見ます。



- バッテリーチェックをしないで撮影してしまったとき



レンズの着脱

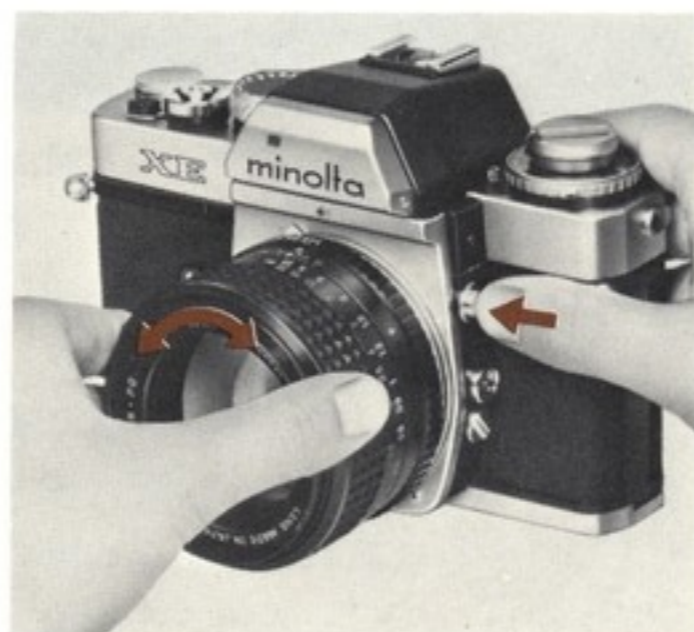
1 取付け方

カメラ側のレンズ交換指標(赤点)と、レンズ側の指標(赤点)を合わせ、時計方向にカチリとロックがかかるまで($\frac{1}{8}$ 回転)回すとレンズは正規の位置に固定されます。



2 取りはずし方

レンズ交換用ボタンを押し、レンズを反時計方向に回すとはずれます。



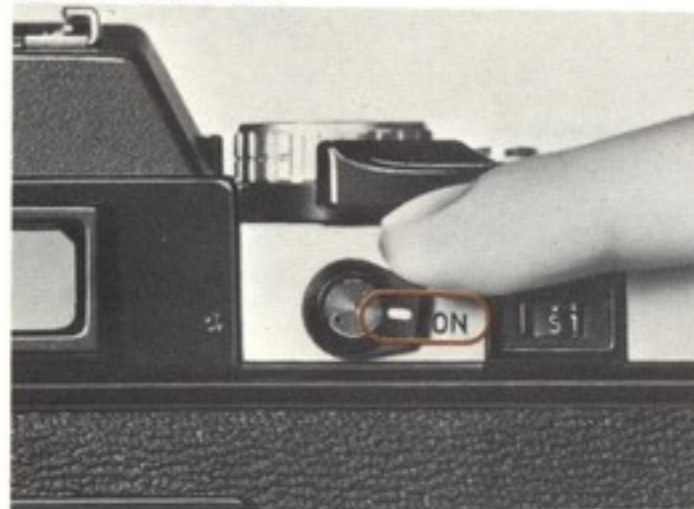
注意

★レンズ交換をする際、レンズ面にキズや指紋をつけないようにしてください。また、カメラのボディ内にゴミが入らないように注意してください。

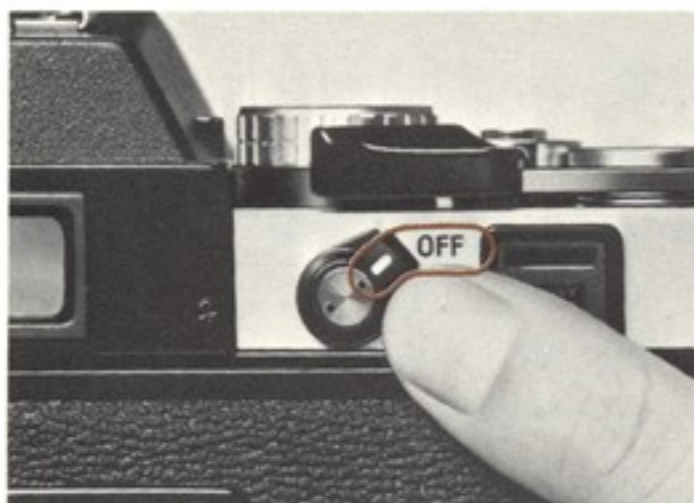
メインスイッチについて

撮影する時はON、撮影しない時はOFFにしてください。

撮影するとき



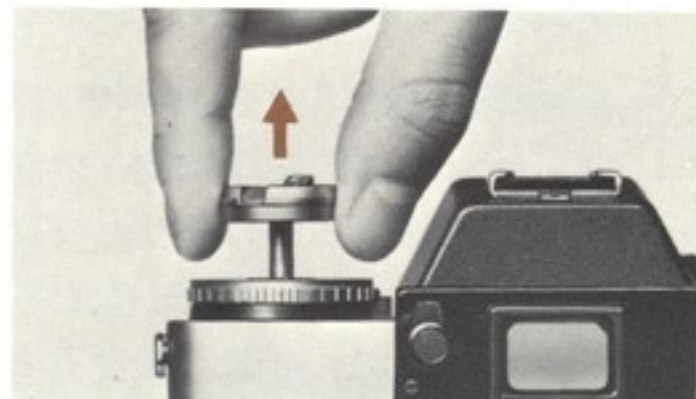
撮影しないとき



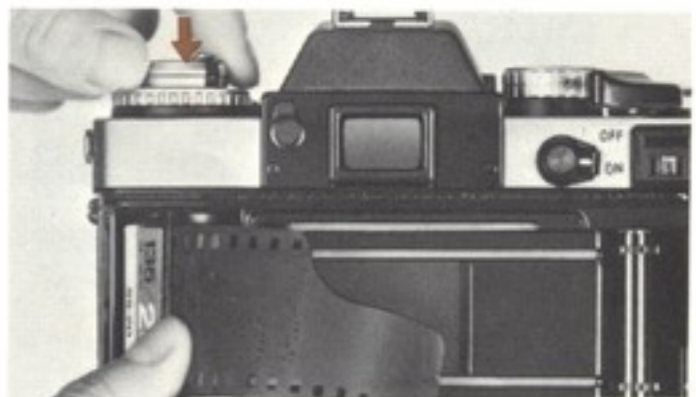
- メインスイッチをONにすると自動露出機構および露出計が作動し、ファインダー内右側のメーター指針が振れます。
- メインスイッチをOFFにすると、シャッターボタンがロックされ、シャッターは切れません。

フィルムの入れ方

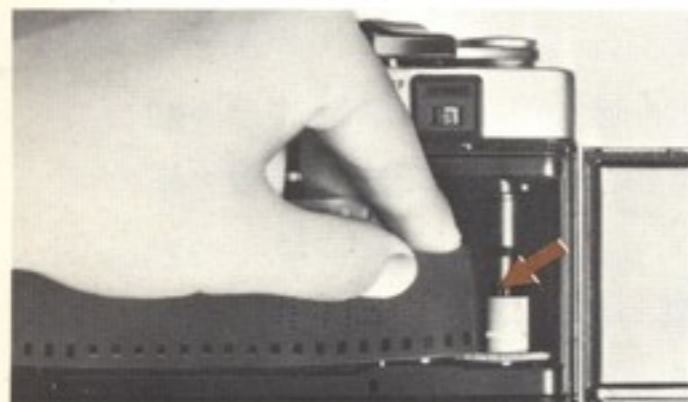
- 1 裏蓋開閉ノブ（フィルム巻戻し兼用）を引出し、さらに強く引くと裏蓋が開きます。



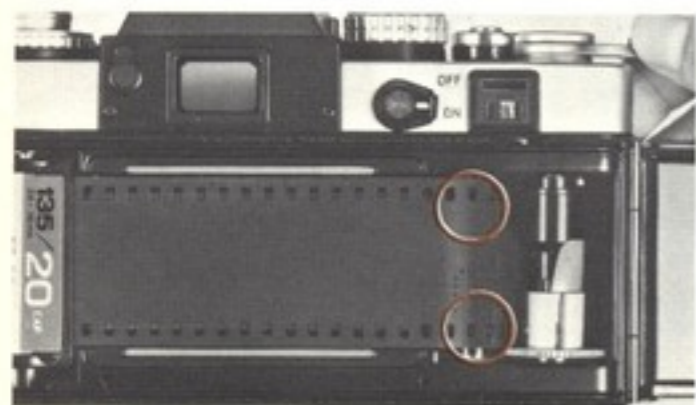
- 2 パトローネを写真のように入れ、裏蓋開閉ノブをもとどおりにしますと軸がパトローネを固定します。



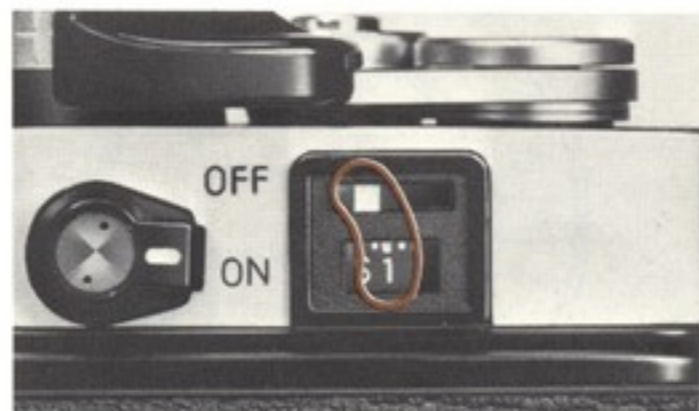
3 フィルムを少し引き出し、フィルムの先端をスプール爪に差し込みます。



4 巻上レバーでフィルムを巻上げ、フィルムの両側の穴（パーフォレーション）がスプロケットの歯にかみ合うまで巻上げます。



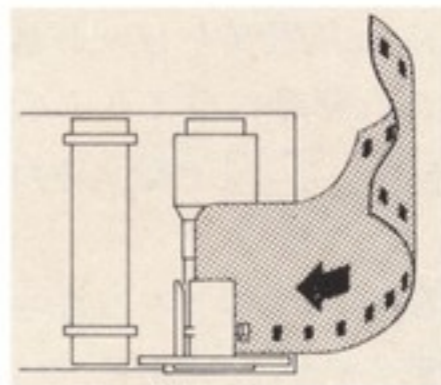
5 裏蓋をしめてからフィルムを巻上げ、フィルムカウンターを1にします。この時、赤いフィルムシグナルが出てフィルムが確実に送られていることを知らせます。



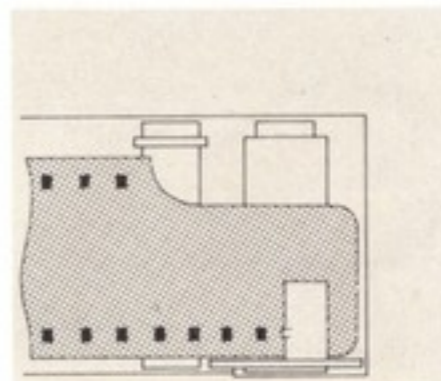
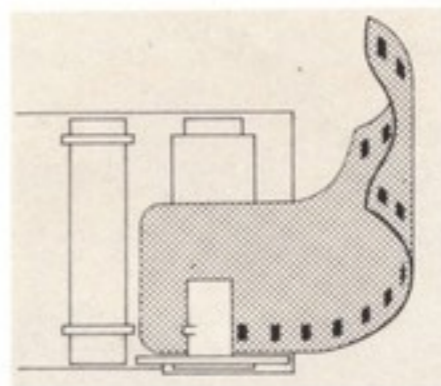
注意

- ★フィルムを入れる際、なるべく直射日光の当たらない場所で行なってください。
- ★フィルムをスプール爪に差し込むとき、図に示すようにフィルムの先端が、スプール爪から出ないようにしてください。

正しい差し込み方



悪い差し込み方

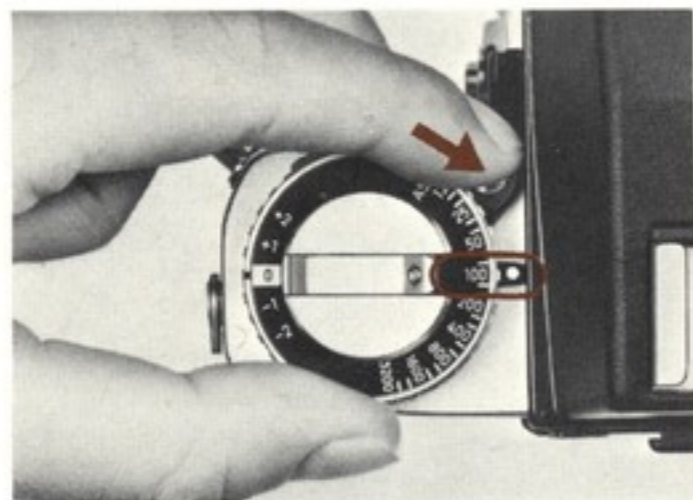


フィルム感度のセット

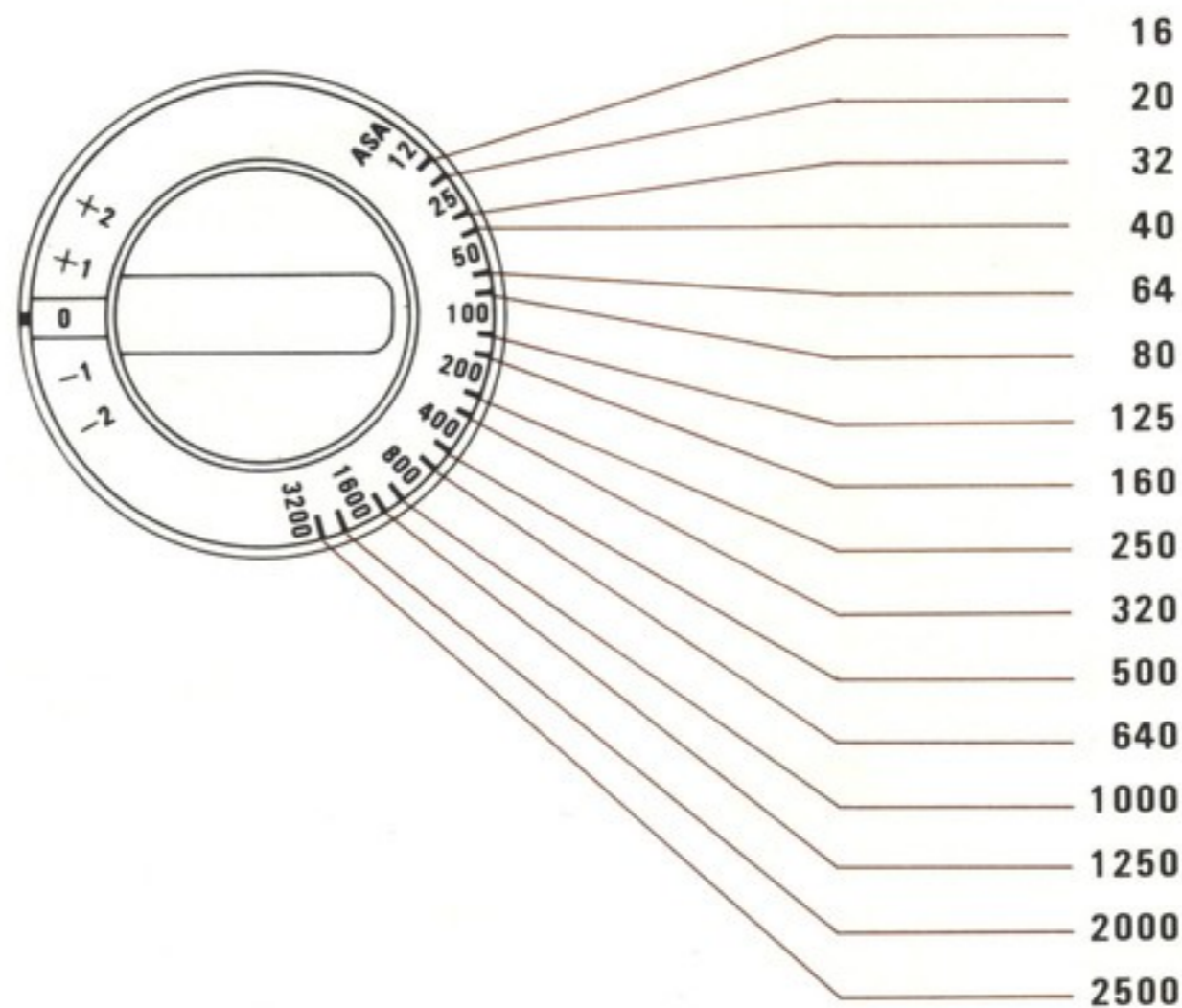
- フィルムを入れ終わったら、次は使用するフィルムの感度をセットします。(フィルム感度はフィルムの外箱に **ASA** と記入されています。)

たとえばASA100のフィルムなら、フィルム感度ダイヤルの100を、フィルム感度指標に合わせます。

なお、フィルム感度ダイヤルは通常ロックがかかっていますのでロックボタンを押し、ロックを解除してからダイヤルを操作します。

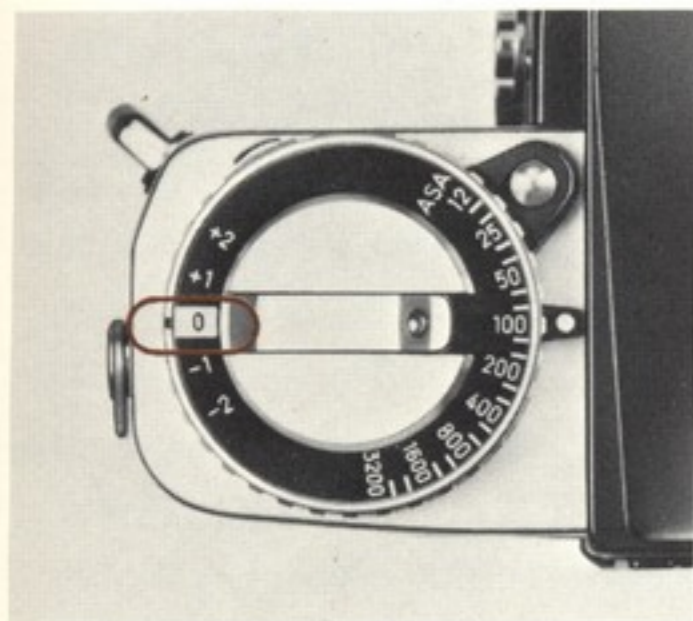


- フィルム感度のダイヤル数値は次の通りで、各々の数値には、クリックがあります。



注意

- ★フィルム感度のセットは露出の基本となるものですから、間違いのないよう確実にセットしてください。
- ★フィルム感度をセットした時、露出補正リングが0位置にセットされているか確認してください。



●メモホルダー

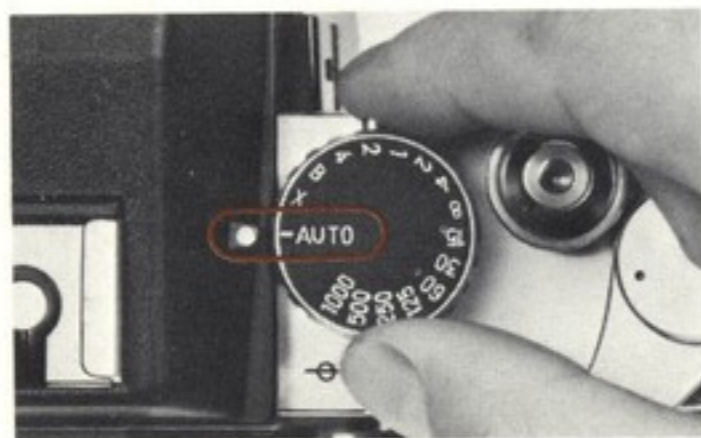
使用フィルムの箱の一部を切り取り、メモホルダーに差し込んでおけば、撮影中のフィルムの種類が一目でわかります。



シャッタースピードダイヤルの操作

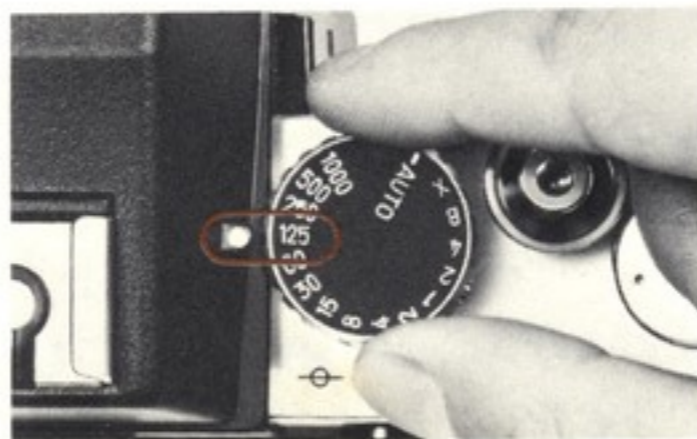
1 自動露出撮影の場合

シャッタースピードダイヤルのAUTOをシャッタースピード指標に合わせます。この位置で撮影しますと絞りリングの操作に従い、シャッタースピードは自動的に調節され、適正な露出がえられます。この時のシャッタースピードはファインダー内のメーター指針が表示します。また、シャッタースピードダイヤルはAUTOの位置でロックがかかります。



2 マニュアル撮影の場合

オートロックボタンを押しながら、シャッタースピードダイヤルをまわすとAUTOが解除されて、任意のシャッタースピード(4秒から1/1000秒)によるマニュアル撮影ができます。この時、ファインダーのメーターは絞りに従った適正なシャッタースピードの値を示していますので、メーターを利用したの撮影もできます。



3 XとB

Xはストロボを利用して撮影する時に使います。この時は1/90秒でシャッターが切れます。

Bはバルブで、シャッターボタンを押している間、シャッターが開いています。

なお、XとBは機械制御式ですから電池のない場合でも使えます。

ファインダーについて

撮影に必要な情報がファインダー内で確認できます。

①絞り値

レンズにセットされた絞り値が表示されます。

②シャッタースピード表示

シャッタースピードダイヤルにセットされたシャッタースピードが表示されます。

自動露出撮影 (AUTO) の場合はAが表示されます。

③スプリットマイクロプリズム

ピントを合わせる時、このスプリットマイクロプリズムを使用します。

④シャッタースピード目盛

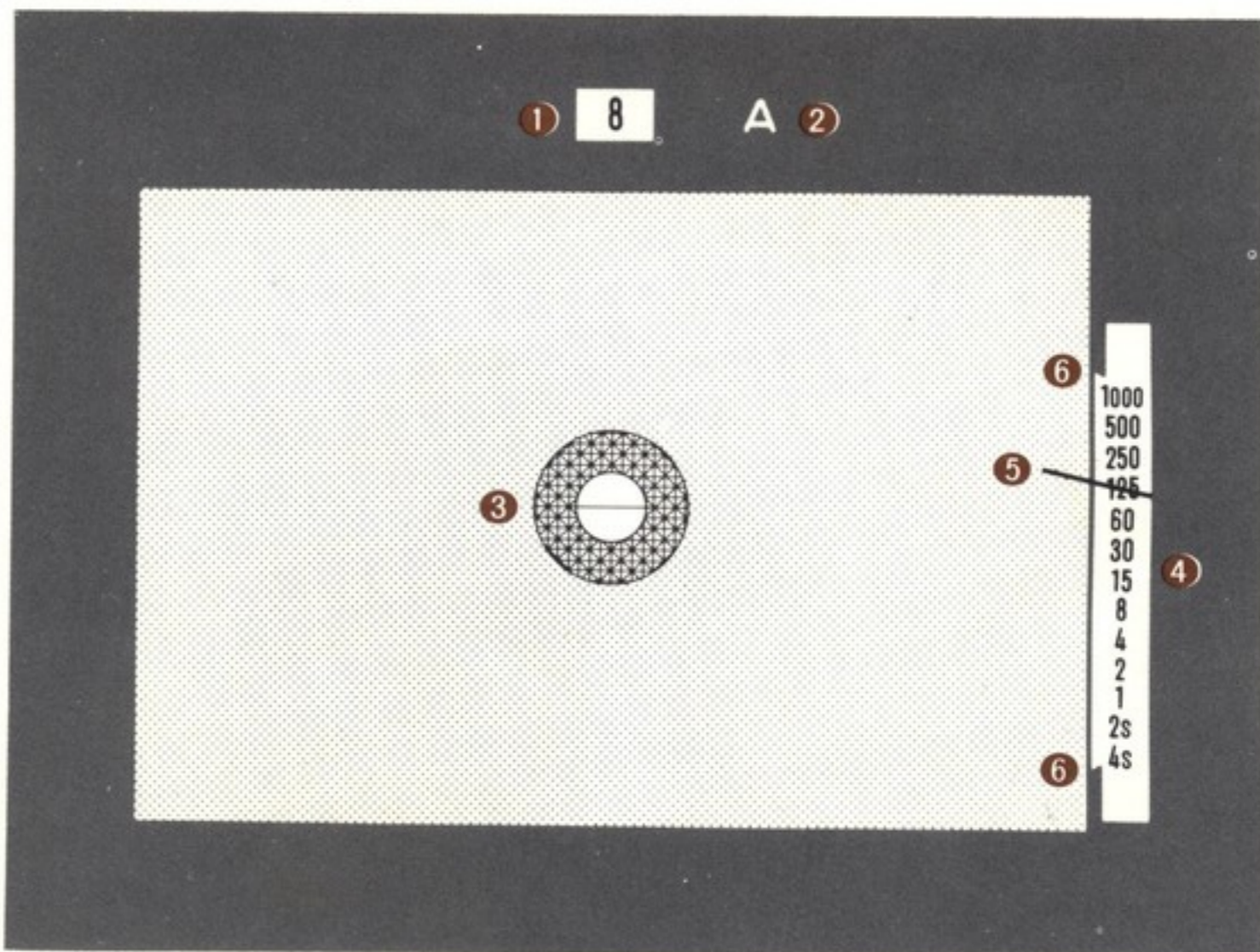
自動露出撮影時 (マニュアル撮影時も) のシャッタースピードが表示されます。

⑤メーター指針

⑥連動外警告マーク

メーター指針が警告マーク上にあ

る場合、適正な露出がえられないことを警告します。



ピントの合わせ方

被写体の構図を決めたら、次はピントを合わせます。ピントは、ファインダーをのぞきながらレンズの焦点調節リングを回し、ファインダー中央のスプリットマイクロプリズムとマット面で確認します。

- スプリットを使用する場合

ピントが合っていないと、スプリットプリズムの上下で像が左右にズレます。ピントが合えば、像のズレがなくなります。

- マイクロプリズム及びマット面を使用する場合

ピントが合っているときは、像がはっきりと見えます。ピントが合っていないと、マット面では像がボケ、マイクロプリズムでは像がちらつきます。

ピントが合っている状態



ピントが合っていない状態

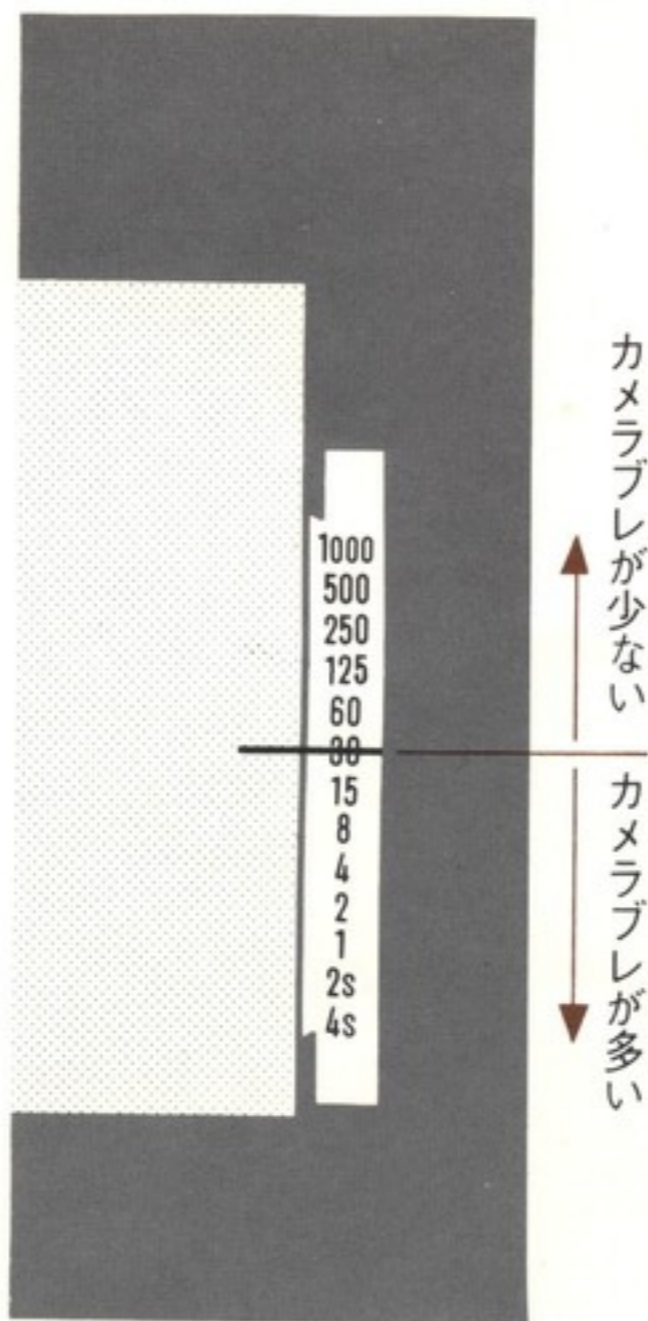


シャッターレリーズについて

シャッターボタンを押すとシャッター幕が開いてフィルムが露光されます。この時、あまりおそいシャッタースピードで露光されるとカメラブレが起きますので注意してください。

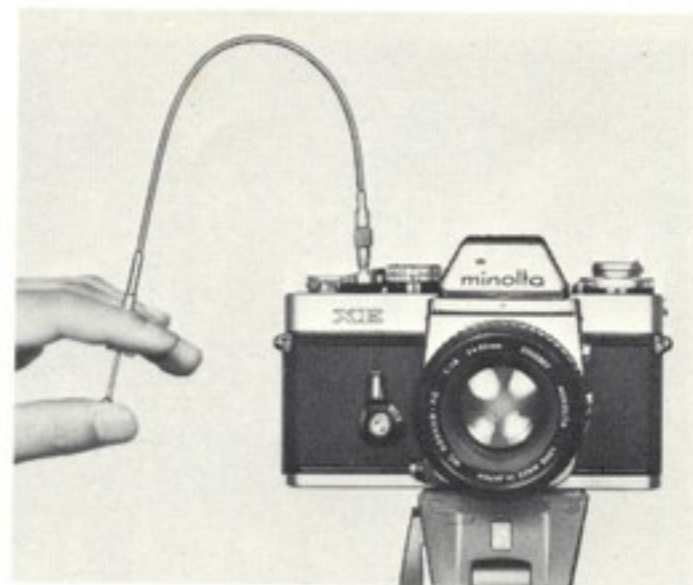
- カメラブレの目安としてファインダーのメーター指針がシャッタースピード30より下側を指しているか、上側を指しているかで判断してください。

- シャッターボタンはメインスイッチがOFFのとき、ロックがかかり押しません。



- メーターが下側を指しているときは、カメラブレが起きやすいのでカメラをしっかりと構えてシャッターを切ってください。わきの下をしめて、左手は下からレンズをささえるように構えるのが良いでしょう。

あまりにもおそいシャッタースピードをメーター指針が指しているような場合には、三脚とレリーズの利用をおすすめします。



絞り効果の確認

MCレンズ群は、開放測光方式ですので、ファインダーは常に開放絞りの状態になっています。したがって絞り効果（被写界深度）を確認するときは、プレビューボタンを押してプレビューボタンを突出させ、絞りを絞り込んでからファインダーで確認します。

通常するとき



絞り込んだとき

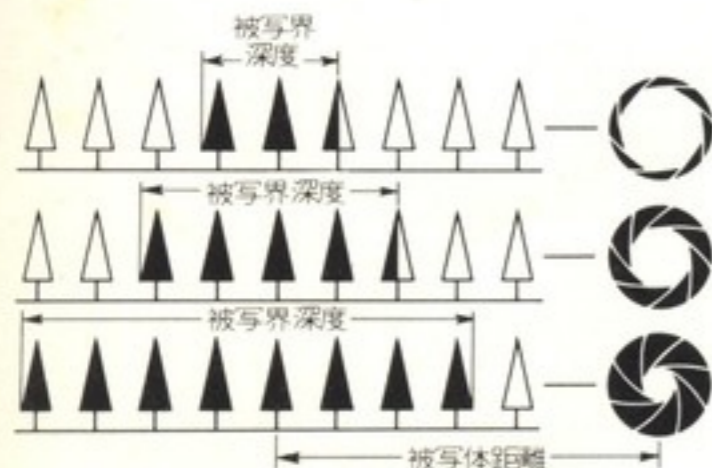


●被写界深度について

レンズの性質として、ある被写体にピントを合わせた場合、その前後にもピントの合っている範囲があります。このピントの合っている範囲が被写界深度です。

この被写界深度には次のような関係があります。

- ①絞り値が大きいほど被写界深度は深く、逆に絞り値が小さいほど浅くなります。



- ②被写界深度は距離が遠くなるほど深く、近くなるほど浅くなります。
 ③前方深度（手前）は後方深度より浅くなります。



- ④同じ絞り値では望遠レンズになるほど浅く、広角レンズになるほど深くなります。

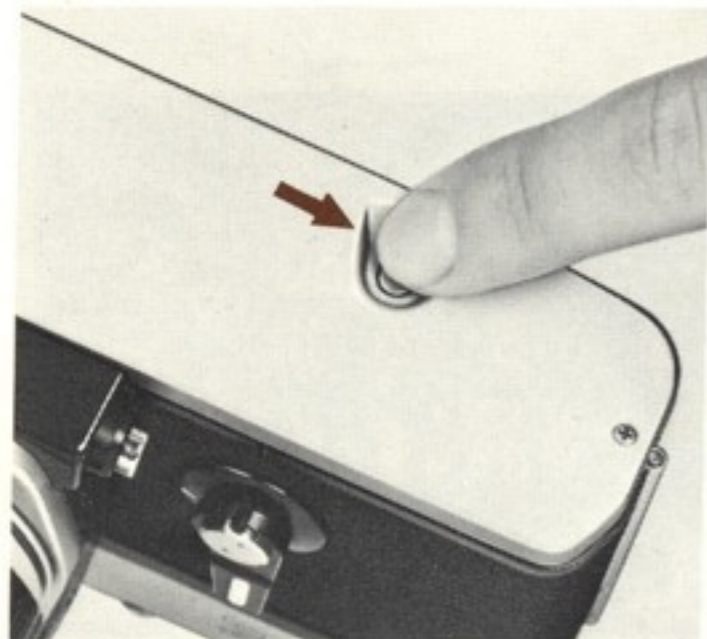
- 被写界深度は各レンズの深度目盛でもわかります。例えば、被写体距離が5m、絞り値が8の場合には、◆マークの両側にある8の範囲内、つまり約3.5m～10mにある被写体はすべて鮮明に写ります。



フィルムの巻戻し

撮影が終わったらフィルムを巻戻します。

- 1 カメラ本体の下側にあるフィルム巻戻しボタンを押します。



- 2 巻戻しクランクレバーを起こし、矢印の方向に回します。

この時、フィルムシグナル（赤マーク）はフィルムが巻戻されるに従って、右側から左側に動きます。



- 3 フィルムの巻戻しが完了しますと、フィルムシグナル（赤マーク）は消えます。

フィルムシグナルが消えた時、巻戻し操作を止め、裏蓋を開けてフィルムを取り出してください。

実技応用編

ハイレベルの
あなたのために



自動露出撮影(AUTO撮影)

1. 絞りを先に決めて撮影するとき

作画の目的に応じて絞りを先に決めれば、自動的に適正露出となるシャッター速度でシャッターが切れます。このとき、絞り値により、被写体の深度が変わり、背景のボケる状態が変化します。たとえば絞りを開けば被写界深度が浅くな

り、背景が整理されて主体が強調されます。(作例1) 逆に絞ると深度が深くなり背景がシャープに写ります。(作例2)

作例1



作例2



2. シャッター速度を先に決めて撮影するとき

ミノルタXEは絞り優先式の自動露出ですが、次の方法でシャッタースピードを先に決めて撮影することもできます。たとえば動きの速い被写体の動きを止めて撮影したいとき、シャッターを高速で切

らねばなりません。

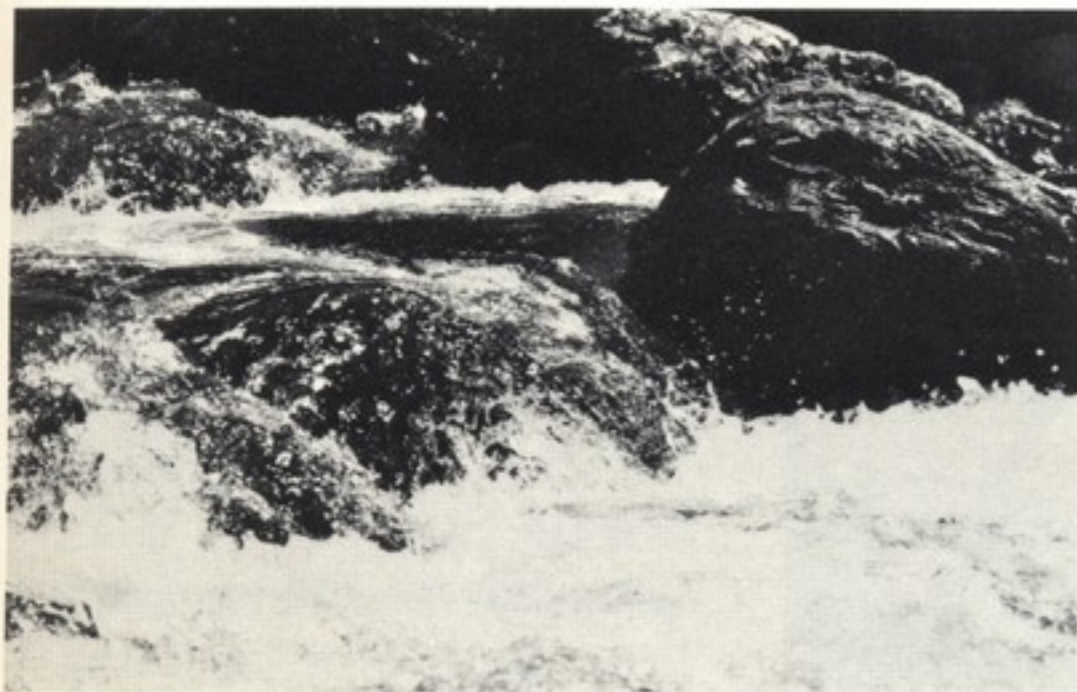
今、シャッタースピード1/500秒で撮影すると決めたとしますと、ファインダーの露出計のメーター指針を見て、500を指すように絞りリングを動かし、500を指した時に撮影します。(作例1)

また、逆に動きの速さを表現する

のに、意識的に低速でシャッターを切り、被写体ブレを起こさすと面白い表現になります。

この時、シャッタースピード1/2秒でシャッターを切ると決めたら露出計の指針が2を指すように絞りリングを動かして撮影します。(作例2)

作例1



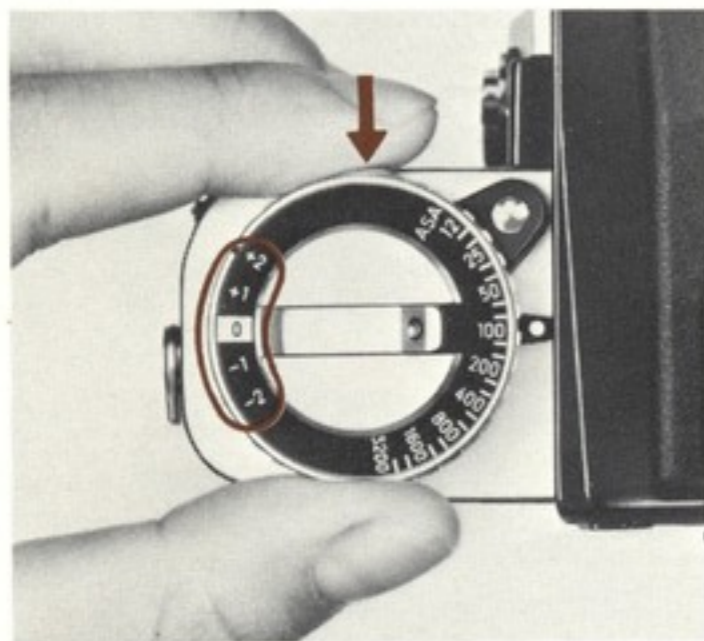
作例2



自動露出レベルを変えたい場合

1. 露出補正リングの使い方

自動露出撮影 (AUTO) で意識的にAUTOの露出量 (標準値) より露出オーバーまたは、露出アンダーにしたいときは、露出補正リングを操作します。



- 露出補正リングのロックボタンを押し、標準値より露出オーバーにしたいときは+側へ、露出アンダーにしたいときは-側へ回します。(ロックは0位置に、クリックは、-1、-2、+1、+2にありますが、クリックのない中間も使えます。)
- +1、+2 および -1、-2 という数字は絞り目盛またはシャッタースピード目盛の1段、2段の違いを表わします。

注意

★露出補正リングの使用後は必ず、0位置にもどしてください。

2. こんな時に使ってください。

(1) 背景が明るすぎる場合 (+1 ~ +2 の補正)

① 逆光状態での撮影

太陽光線がカメラの背面から当たっている状態 (順光状態) は、自動露出撮影 (AUTO) で撮影すれば適正な露出がえられますが、太陽光線がカメラの前正面から当たっている状態 (逆光、反逆光) では太陽から直接くる光を測光してねらった被写体 (例えば人物) よりも明るいところに露出が合っています。こんな時は、あらかじめ露出補正リングを +1 あるいは +2 にセットして自動露出撮影をしますとねらった人物に露出が合います。

補正しないとき



補正したとき



② 雪景色等の撮影

雪景色そのものは露出補正リングで補正しなくても、自動露出撮影 (AUTO) で適正露出がえられますが、雪景色の中の人物となりますと周囲の明るい雪に露出が合い、人物は暗くなります。このような時逆光撮影と同様に露出補正リングを +1 ~ +2 にして自動露出撮影をしますと人物は明るく写ります。

撮影画面内 (ファインダーで見える範囲) で人物が占める割合が大きく、雪の部分が少ないような構図のときは、露出補正リングを操作する必要はありません。

(2)背景が暗すぎるとき (-1~-2の補正)

①スポットライトで照らされた人物を撮影するときなどは、露出補正リングを-1か-2にして自動露出撮影をしてください。

これは周囲の暗い部分に露出が左右され人物が明るく写りすぎますので、その周囲の暗い部分の占める割合に応じて、補正する量を適当に決めてください。

補正したとき



(3)複写をするとき

①文献などの複写のように撮影画面(ファインダーで見える範囲)の大部分を白い部分で占める時は、露出補正リングを+1か+2に、また、それと反対に黒い部分が大部分を占める時は-1~-2に合わせて自動露出撮影をするとききれいな複写ができます。

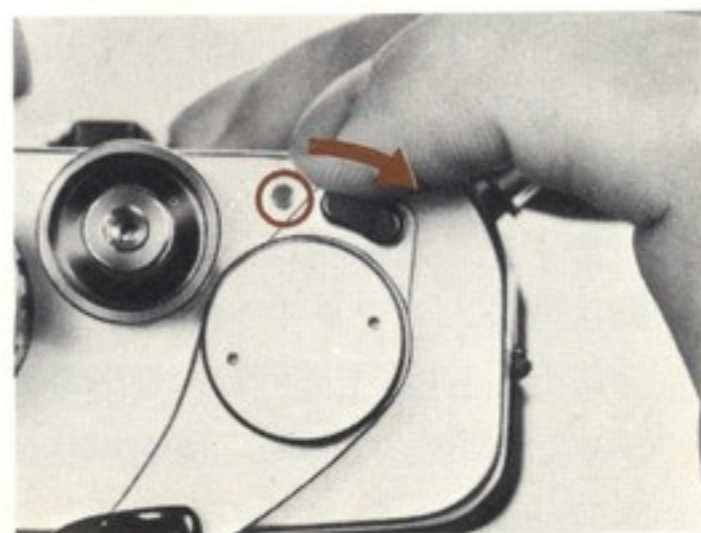
補正しないとき



同じ画面に違った被写体や、同じ被写体を何回も写し込む多重撮影には多重露光レバーを使えば簡単にできます。

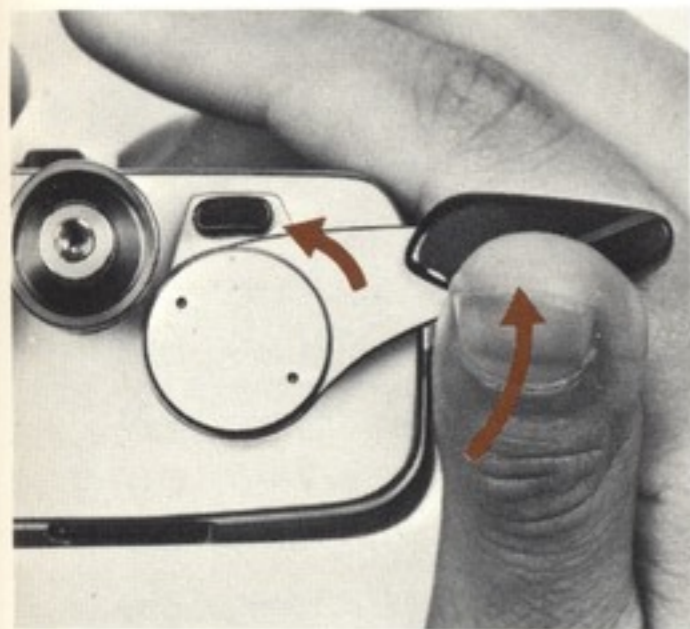
1. 多重露光の方法

- (1)1回目の露光をします。(シャッターを切る)
- (2)多重露光レバーを矢印の方向にいっぱい動かします。(赤マークが多重露光機構が働いていることを意味しています。)



(3) 巻上げレバーを巻上げます。

この時フィルムを送らずにシャッターのみがチャージされ、フィルムカウンターも進みません。また、巻上げると多重露光レバーはもとにもどります。



(4) 2回目の露光をします。(シャッターを切る)

- この操作の繰返しにより、何回でも、多重露光撮影ができます。

2. 露出の補正

多重撮影をする場合、被写体や撮影回数により露出の補正が必要な場合があります。

画面全体が明るい被写体をおしを何回も写し込む時や、同じ被写体を何回も写し込む時、2重撮影なら露出補正リングを-1にして2回とも自動露出撮影してください。3重撮影なら-1と-2のあいだに4重撮影なら-2のところ露出補正リングを合わせて撮影してください。

- 夜空に開く花火や夜景に人物を写し込む時などは露出補正リングの操作は不要です。

注意

★ 多重露光機構は、何回撮影してもフィルムは動かないように配慮されていますが、フィルムのたるみなどで時には微少のズレが出ることもあります。

交換レンズについて

1. すべてのロッコールレンズが使えます。

このカメラは不変のミノルタマウントを継承していますので、焦点距離16mmの魚眼レンズから1600mmの超望遠レンズまですべてのロッコールレンズが使えます。

2. 自動露出 (AUTO) 撮影の仕方

- MC ロッコールレンズ
レンズを取り付けシャッターを切るだけで自動露出撮影ができます。また、ファインダーのメーター指針も絞り目盛に従って常に作動します。
- MC ロッコール以外の完全自動絞り式ロッコールレンズ
撮影する絞り値をセットし、プレビューボタンを押してボタンが押し出された状態でシャッターを切れば自動露出撮影ができます。
- ハンドプリセット絞り式、およびフィルターによる光量調節方式のロッコールレンズ
プレビューボタンに関係なく撮影する絞り値にセットしてシャッターを切れば自動露出撮影ができます。

ロッコールレンズの測光方式は次表の通りです。

注意

★旧オートプリセットレンズの内、一部使用できないものがあります。くわしくは各地サービスステーションにご相談ください。

レンズの種類		測光方式		絞り方式	レンズの種類		測光方式		絞り方式	
超 広 角 ・ 広 角	MC 16mm F 2.8	開放測光		完全自動絞り	超 望 遠	TELYT-S800mm F 6.3	絞り込み測光	}	ハンドプリセット絞り	
	MC 21mm F 2.8	◇		◇		RF 800mm F 8			◇	ND フィルター による光量 調節方式
	MC 24mm F 2.8	◇		◇		RF 1000mm F 6.3			◇	
	MC 28mm F 2.5	◇		◇		RF 1600mm F 11			◇	
	MC 28mm F 2.8	◇		◇	ズ ー ム	MC 80~200mm F 4.5	開放測光		完全自動絞り	
	MC 28mm F 3.5	◇		◇		MC 100~200mm F 5.6	◇		◇	
	MC 35mm F 1.8	◇		◇		MC 100~500mm F 8	◇		◇	
	MC 35mm F 2.8	◇		◇	マ ク ロ	MC 50mm F 3.5	◇		◇	
MC 50mm F 1.7	◇		◇	MC 100mm F 3.5		◇		◇		
標 準	MC 50mm F 1.4	◇		◇	ベ ロ ー ズ 用 (オ ー ト ベ ロ ー ズ I 使 用 時)	100mm F 4	絞り込み測光	}	◇	
	MC 58mm F 1.2	◇		◇		PHOTAR 12.5mm F 1.9			◇	手 動 絞 り
		◇		◇		PHOTAR 25mm F 2.5			◇	
望 遠	MC 85mm F 1.7	◇		◇						◇
	MC 100mm F 2.5	◇		◇						◇
	MC 100mm F 3.5	◇		◇						◇
	MC 135mm F 2.8	◇		◇					◇	
	MC 135mm F 3.5	◇		◇					◇	
	MC 200mm F 3.5	◇		◇					◇	
	MC 200mm F 4.5	◇		◇					◇	
	MC 300mm F 4.5	◇		◇					◇	
MC 300mm F 5.6	◇		◇					◇		

セルフタイマーの使い方

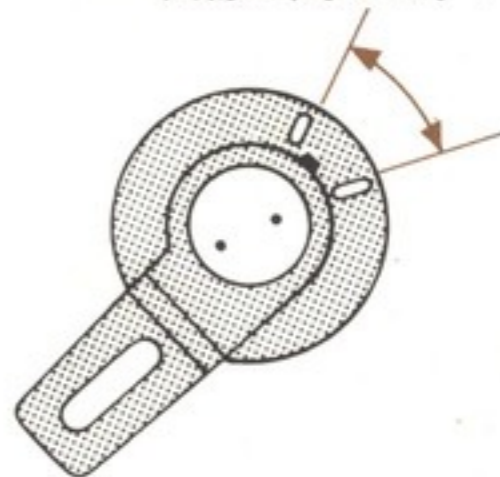
セルフタイマーは記念写真など、自分自身を撮影する時などに使用します。作動時間は約6秒から約10秒まで調節できます。自動露出については、シャッター幕が開く直前の被写体に合った適正な露出がえられます。

〈使い方〉

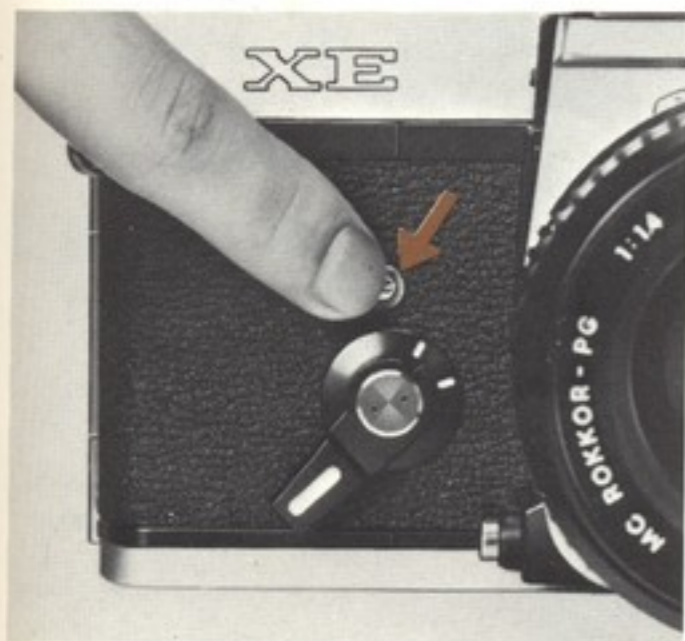
1. フィルムを巻上げた後、セルフタイマーレバーを矢印の方向へ回し、セルフタイマー指標を白線の間セットします。



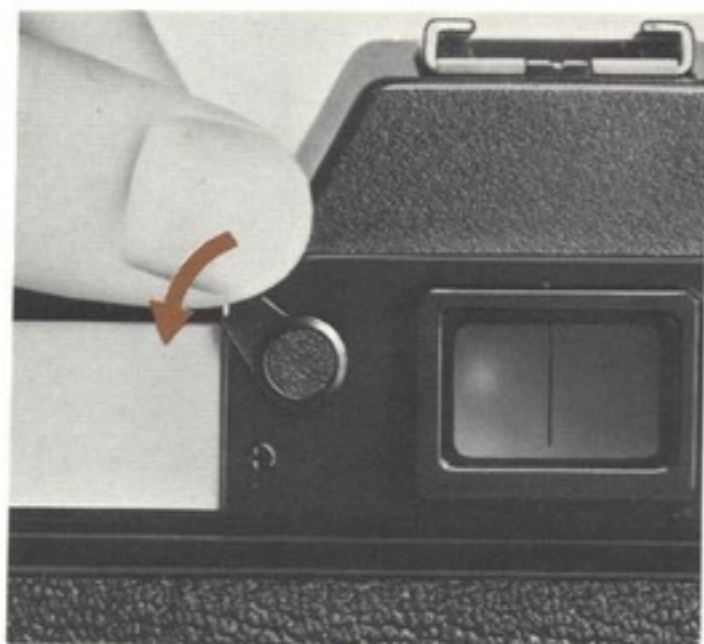
セルフタイマー指標は白線の間セットします。



2.セルフタイマースタートボタンを押すと、セルフタイマーが作動し、シャッターが自動的に切れて撮影されます。



- 自動露出撮影をする場合は、必ずアイピースシャッターを閉じて、撮影してください。アイピースからの逆入光を防ぎます。



注意

- ★セルフタイマースタートボタンを押しても、フィルムを巻上げていないと、セルフタイマーレバーは途中で止まります。この時、セルフタイマーレバーをもう一度セットした後フィルムを巻上げて、再びスタートボタンを押してください。
- ★セルフタイマーレバーをセットして、シャッターボタンを押すとセルフタイマーは作動しないままシャッターが切れます。

フラッシュ撮影の仕方

1. フラッシュをカメラに取り付けます。

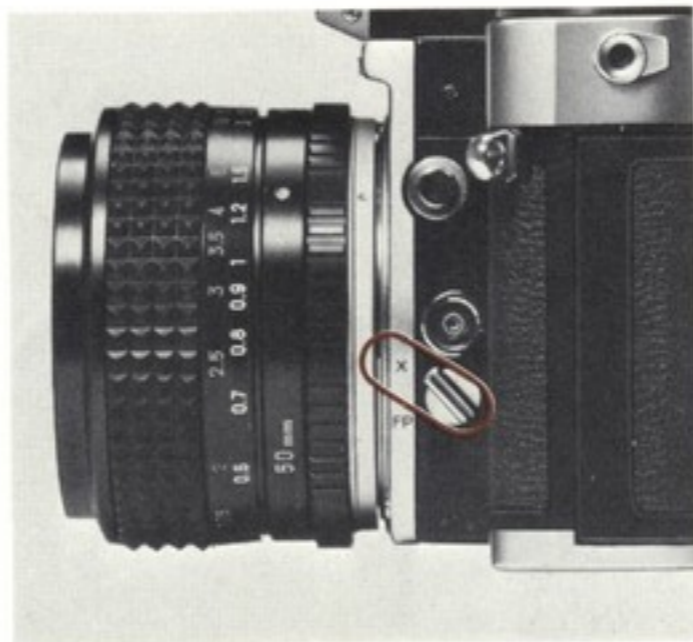
シンクロコードをシンクロターミナルにさし込みます。シンクロコードにネジ止めのついている場合はネジ止めします。

ノンコード式の場合はフラッシュをアクセサリシューにさし込むだけで使用できます。



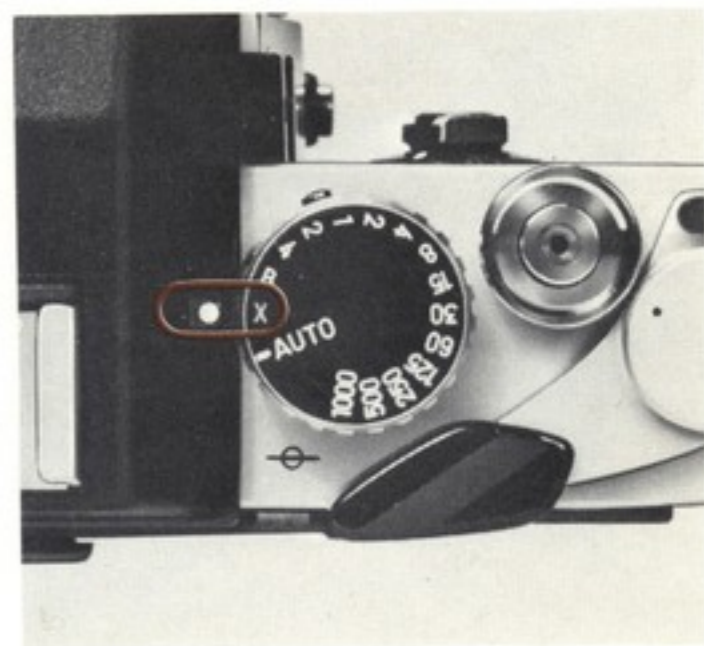
2. FP・X切換スイッチを切換えます。

ストロボを使用するときはXに、FP級バルブを使用するときはFPにします。



3. シャッタースピードダイヤルをフラッシュ同調表に従ってセットします。

一般にストロボの場合はXにセットします。



4. フラッシュのガイドナンバーを基準にして露出を決めます。

露出の決め方は、次の公式から絞り値を求めその絞り値（計算で求めた数字に一番近い絞り値）で撮影します。

$$\text{絞り値} = \frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{撮影距離}}$$

- 使用するフラッシュがオートストロボの場合は、このようなめんどろな計算を必要としないので、オートストロボの使用書に従ってください。

5. シャッターを切ります。

フラッシュ同調表

シャッター スピード	接点	X	F P
	使用 フラッシュ	スト ロボ	F P級 バルブ
X		○	○
B		○	○
4		○	○
2		○	○
1		○	○
1/2		○	○
1/4		○	○
1/8		○	○
1/15		○	○
1/30		○	○
1/60		○	○
1/125		×	○
1/250		×	○
1/500		×	○
1/1000		×	○

○同調する
×同調しない

接写・複写・顕写について

ミノルタXEは、接写、複写、顕写用アクセサリーを使用した時も、自動露出撮影が可能です。

1. クローズアップレンズ(1)MCオート中間リング(2)顕微鏡アダプター(3)を使用する場合、通常の自動露出撮影と同じ方法で撮影します。



アクセサリーのくわしい使用方法は、各々の使用説明書をごらんください。

2. オートベローズⅠ(4)を使用する場合、撮影する絞り値をセットした後、必ずプレビューボタンを押してボタンが押し出された状態でシャッターを切ります。



3. ベローズⅢ(5)中間リングⅡ(6)を使用する場合には、絞り込みボタンに関係なく、撮影する絞り値にセットしてシャッターを切ります。



フィルターの使用方

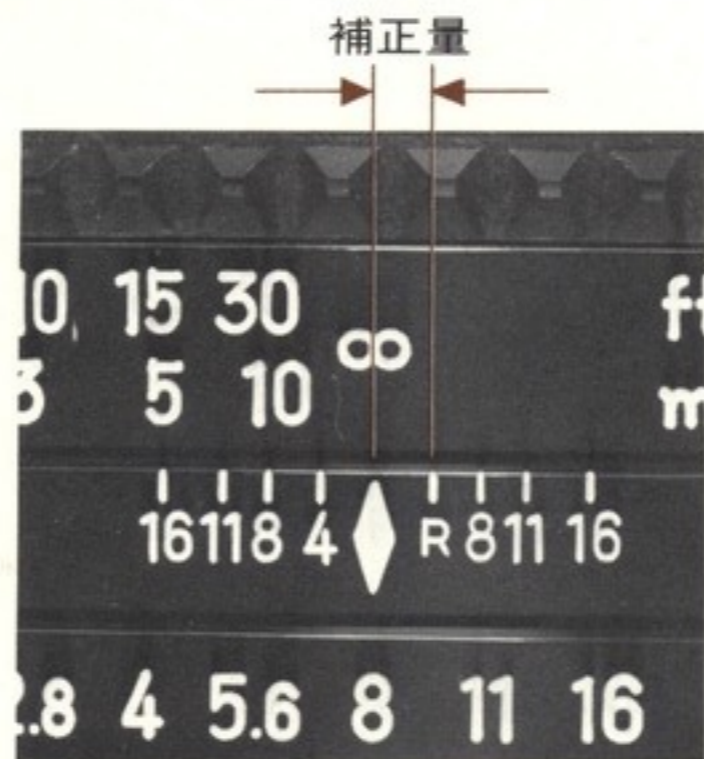
各種フィルターを使用する時も、通常の自動露出(AUTO)撮影が可能です。

● フィルターの種類と効果

	フィルター名	色	効果	露光		フィルター名	色	効果	露光
白 黒 フ イ ル ム 用	L-39 (UV)	無色	有害な紫外線をカットします	自動露出 (AUTO)	カラー フィル ム用	1A	うすい ピンク	カラー撮影で木蔭などの青味をおさえます	自動露出 (AUTO)
	Y-48	黄色	コントラストをつけます	自動露出 (AUTO)		85	黄赤色	タングステンタイプカラーフィルムを昼光で撮影するとき用いる	自動露出 (AUTO)
	O-56	橙色	Y-48よりもさらにコントラストをつけます	自動露出 (AUTO)		80B	青色	デーライトタイプカラーフィルムを電灯光で撮影するとき用います	自動露出 (AUTO)
	R-60	赤色	O-56よりもさらにコントラストをつけます 赤外白黒フィルムと併用で赤外撮影に用います	露出補正リングを0と+1の間にして自動露出		ND		露出過度の調節や絞りによる被写界深度の調節に使用します。	自動露出 (AUTO)
	G0	緑色	人物撮影に用い肌の質感描写の効果があります	自動露出 (AUTO)		偏光		ガラス面等の反射を除去します	自動露出 (AUTO)

赤外撮影（赤外マークについて）

1. 白黒赤外フィルム（赤フィルター併用）を使って赤外撮影をする場合は一般の撮影の場合とピントの結ぶ位置が異なります。
したがって、赤外撮影をする場合は一度フィルターなしでピントを合わせた後、距離目盛の数值をR（赤外マーク）までずらせ、フィルターを取付けてから撮影します。

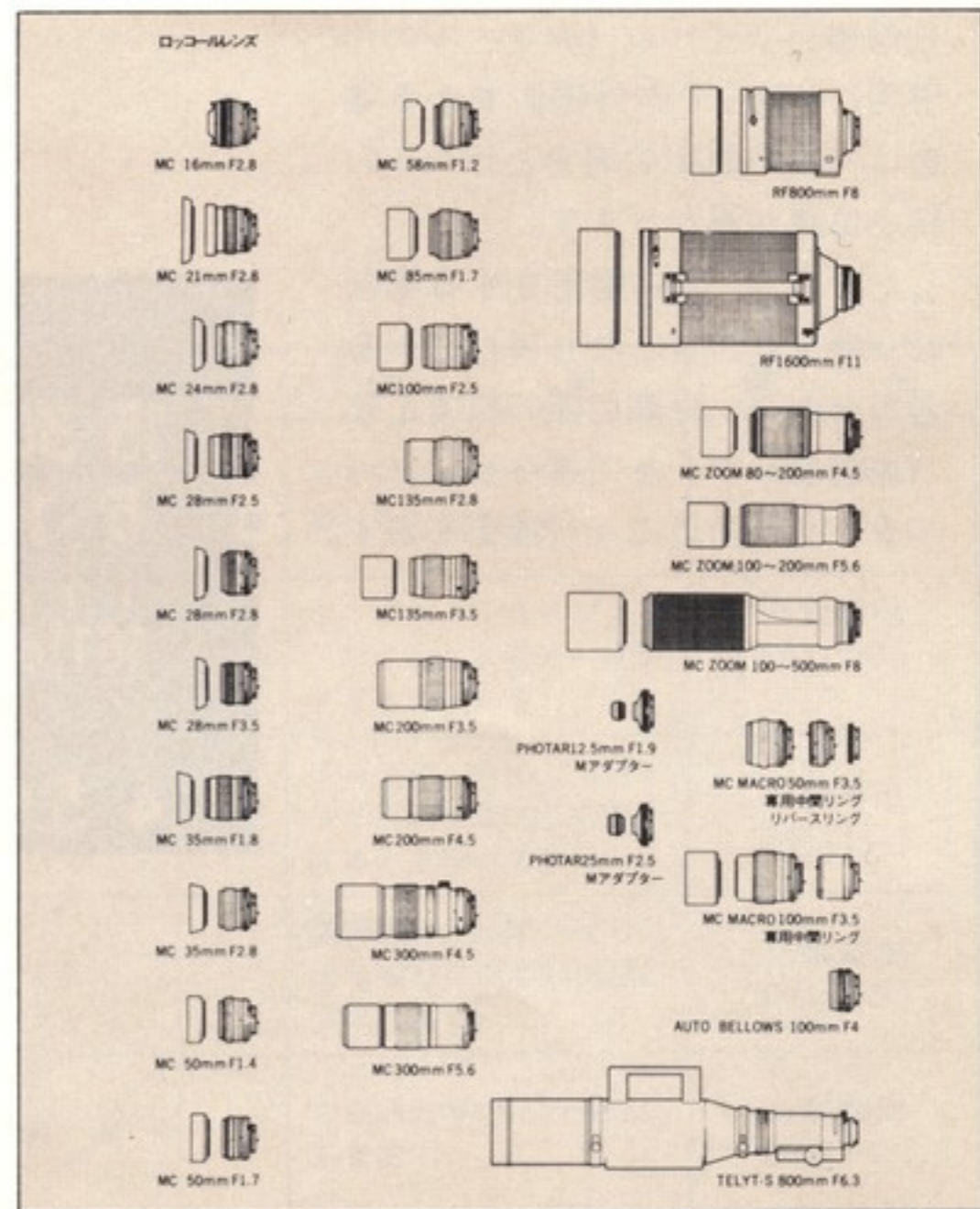
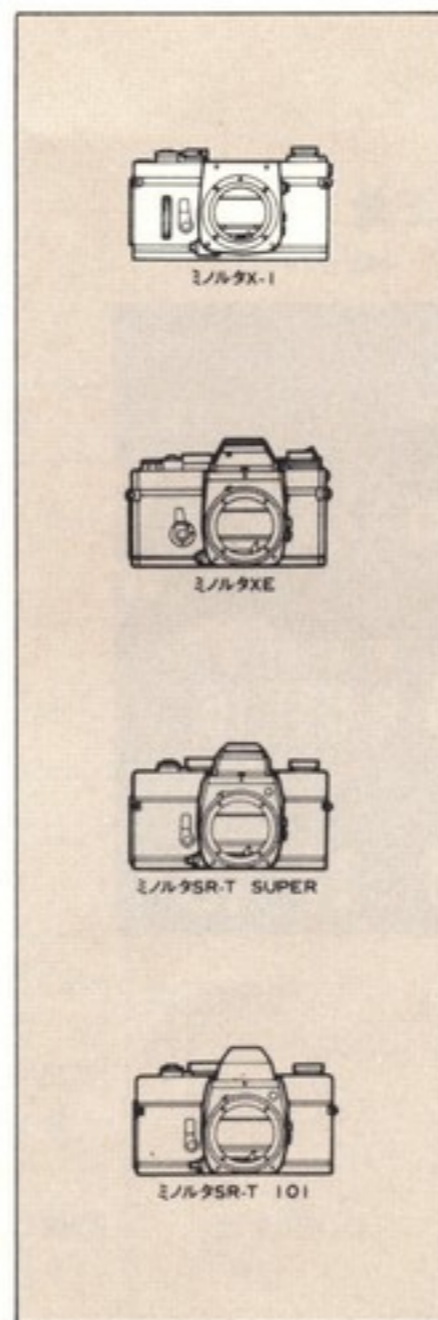


2. カラー赤外フィルムの場合は、このピント位置の補正をする必要はありません。

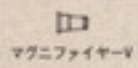
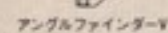
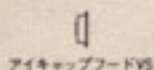
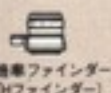
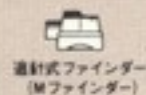
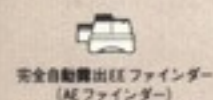
注意

★露出の決定は、赤外フィルムの使用説明書に従ってください。

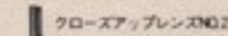
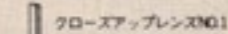
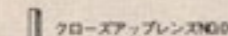
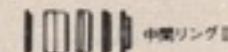
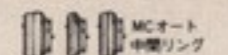
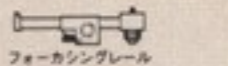
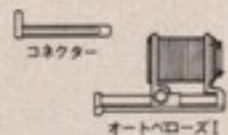
ミノルター一眼レフシステムチャート



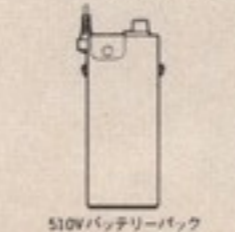
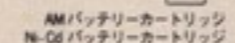
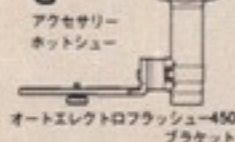
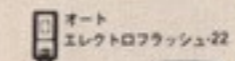
ファインダー・スクリーン



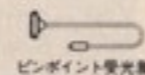
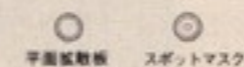
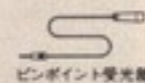
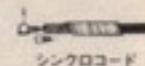
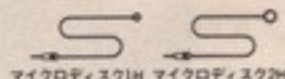
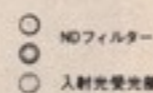
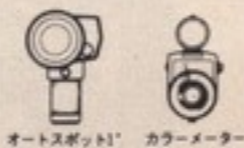
撮影・複写・顕微鏡アクセサリ



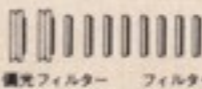
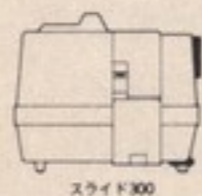
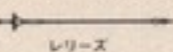
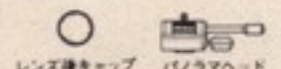
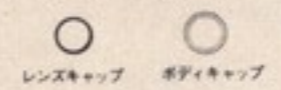
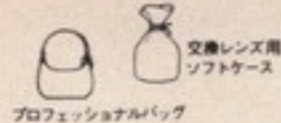
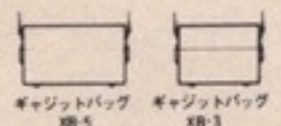
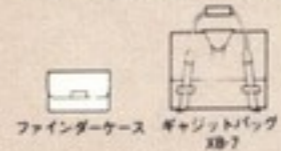
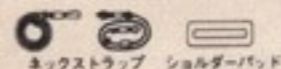
フラッシュアクセサリ



メーター



その他アクセサリ



知っておくと良いこと



①カメラの清掃は空拭きかアルコールで

カメラはゴミやホコリをきらいませう。時にはカメラの清掃をしてください。

まずブロアーでゴミやホコリを吹きとばし、次に柔かいきれいな布でよく拭いてください。もし、油気があり、とれにくい汚れのあるときはアルコールで拭きとってください。

②レンズの清掃はアルコールかレンズクリーナーで

レンズは絶えず汚れないように注意してほしいものですが、もし誤

って汚した場合ブロアーでゴミを除き、清潔な木綿の布で軽く拭きとってください。

これでも汚れがとれないときは、レンズクリーニングペーパーに市販の液体クリーナー（コダック製、フジフィルム製など）かアルコールを少しつけて軽く拭きます。なお、液体クリーナーやアルコールはペーパーに浸みこませて拭くようにしてください。

③シャッター幕の清掃に薬品で拭くということは止めてください。

ミノルタXEのシャッター幕は3枚の羽根から成っていますが薬品

でシャッター幕を拭きますと羽根のスキ間から薬品が内部へしみ込むことが考えられますので、シャッター幕の清掃はハケでホコリをとる程度にしてください。

④シャッター幕にはサビ防止のため防錆剤が塗ってあります。

シャッターを何回も切っていると、この防錆剤の茶色の粉がシャッター幕につくときがあり一見サビたように見えますがまったく害はありません。

⑤ミラーには手を触れないでください。

小さなゴミや汚れがあってもミラーの機能には全く影響がありません。

手でミラーを上げたり、下げたりすることは微妙な調整をくずす恐れもあります。

ミラーには手で触れないでください。

⑥カメラの保存場所は

高温・多湿やほこりっぽいところはさけ、風通しの良いところに保管し、長期間ご使用にならないときは、電池を取り出し、乾燥剤（シリカゲルなど）といっしょに缶の中にしまっておくとより安全です。

電池には、低温になると電池容量が低下するという性質があります。

ミノルタXEに使用している銀電池は耐寒性に優れたものですが、やはり低温時の性能は常温時の性能よりも落ちますので古い電池を使い氷点下での撮影をすれば電池容量が低下し、カメラが作動しなくなることもあります。冬山など低温状態でカメラを使用される時は電池についての配慮も十分に行ってください。

低温でカメラを使用するときには

- 使用する前、新しい電池と入れ換えてください。
- 予備の電池を用意してください。

ミノルタカメラでは、ご愛用のみなさまからのご質問、ご相談、カメラ修理、その他アフターサービスなど一切をたまわりますために、各地にサービス・ステーションを設けております。ここには、ミノルタの新製品をはじめ、各種カメラを展示しております。また各種パーツや専門検査機をつねに完備して、スピーディに、しかも完ぺきなサービスを心がけております。お気軽にご利用ください。

1. 撮影の失敗・カメラの故障を防ぐためには

- カメラによって、特長や使用法が異なりますので、使用説明書を十分お読みの上、ご使用ください。
- 大切な写真、(結婚式、新婚旅行、海外旅行、業務用等)は事前に一度試写していただくか、最寄りのサービス・ステーションでの点検をおすすめします。
- 雨の日、海岸、火山等は水滴、ガス等によって、さび、腐蝕の原因にもなりますので十分ご注意ください。
- カメラの持ち歩きはケースを付け、肩ひもはできるだけ短かくし、振動、ショックを与えないようにお

持ちください。

- 持ち運びするとき、自動車のリアウインドやトランクの中に置かないようにしてください。

2. カメラが不調のときは……

- お手持ちのカメラが不調のときは、直接最寄りのサービス・ステーションに現品ご持参の上ご相談ください。ご持参できない場合は郵送していただくか、または近くのカメラ店にお持ちください。直接郵送またはカメラ店経由についてのお願い。
- 保証書添付の上、故障内容、修理依頼個所をご明示ください。
- 郵送の場合は必ず書留小包便にて

ご送付ください。

3. 修理について……

お買上げ後の1年間は無料です。カメラの保証書は、お買上げのときから1年間有効です。お申し出いただきましたとき、この保証書をお示しくくださいますと、修理代は無料です。

もし保証書をご持参くださらないときは、有料になりますのでご注意ください。

但し、下記の場合は保証期間中でありましても、無料修理をいたしかねますので、ご了承ください。

- 火災、浸水、その他天災による故障
- 不慮の事故、誤用、衝撃が原因で

ある故障

- 当社以外で修理か改造をして起こした故障
- 2年目からは有料です。

4. 修理にかかる日数は……

簡単な修理の場合は、その場で調整させていただきませんが、修理の内容により日数がかかります場合は、綿密な調整と厳重な検査を要しますので、約1週間お預りさせていただきます。

5. 海外旅行中に故障したとき……

海外旅行の途中でカメラが不調のときは、アメリカやドイツ（後述）のサービス・ステーションに直接お越しいただくか、郵送ください

ましたら、日本語の保証書は通用いたします。また各国にミノルタカメラの代理店を配置しておりますから、その方もご利用ください。

（この場合、一般代理店では購入国別保証制度を採用しておりますので、保証範囲内の修理でも料金を請求されますからご了承ください）ご出発の時は、海外サービス・ステーションおよび代理店の居所一覧表を最寄りのサービス・ステーションからお取り寄せの上お持ちください。

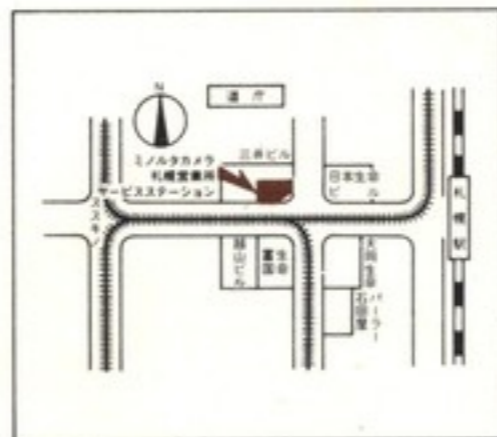
6. カメラの相談はサービスマンが承ります。

カメラ、写真、撮影についてのご

各地サービスステーション

質問、ご相談、あるいはミノルタ製品を直接手にとってご覧になりたいときは、ご遠慮なく最寄りのサービス・ステーションにお出かけください。ミノルタカメラのサービス・ステーションには、カメラやアクセサリを展示し、サービスマンがお待ちしております。その他、ミノルタカメラのカタログも豊富に用意しております。ご希望の節はお手紙、お電話でどんどんお申し付けください。

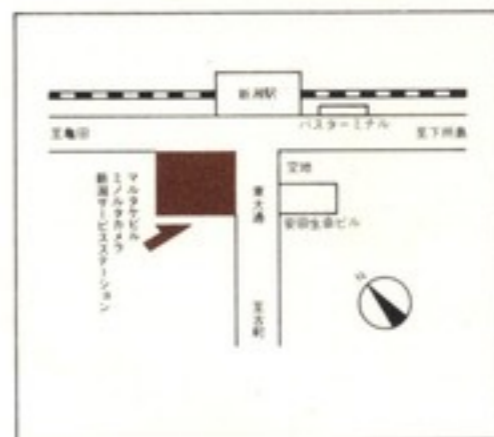
札幌サービス・ステーション(営業所内)
 ☎060 札幌市中央区北二条西4丁目1番地
 (三井ビル2階)
 T E L (011) 281-6666 (代)



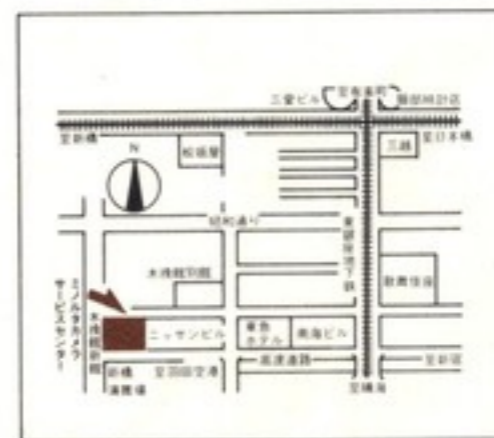
仙台サービス・ステーション(営業所内)
 ☎980 仙台市二日町1番23号 (熱海ビル3階)
 T E L (0222) 61-3431 (代)



新潟サービス・ステーション(支所内)
 ☎950 新潟市東大通1丁目23番地 (マルタケビル8階)
 T E L (0252) 44-7188 (代)



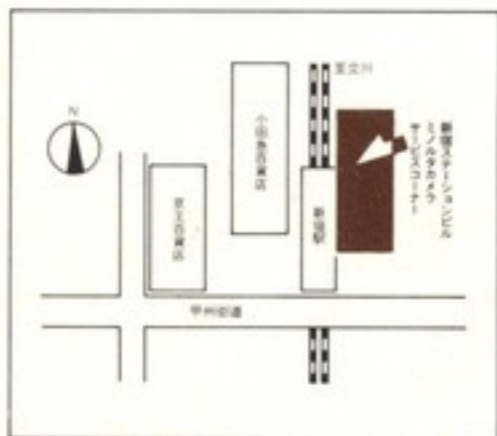
東京サービス・センター
 ☎104 東京都中央区銀座6丁目17番2号
 (木挽館新館)
 T E L (03) 542-1261 (代)



新宿サービス・コーナー

☎160 東京都新宿区新宿3-38-1 (新宿
ステーションビル4階)

T E L (03) 352-6552・6553



横浜サービス・ステーション(支所内)

☎231 横浜市中区尾上町5丁目77番2号
(千代田生命横浜ビル2階)

T E L (045) 651-2511・2512・2513



大阪サービス・センター

☎541 大阪市東区備後町2丁目45 (高橋ビル
南8号館1階)

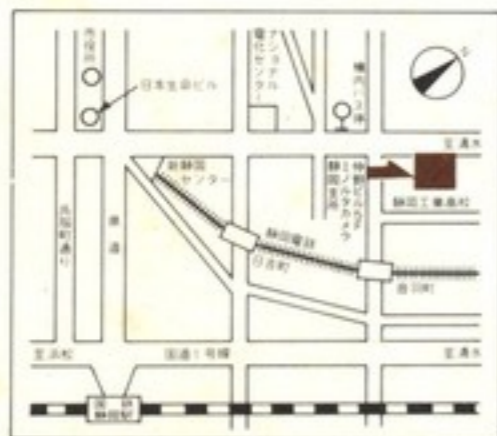
T E L (06) 201-5816 (代)



静岡サービス・ステーション(支所内)

☎420 静岡市太田町12番地の6 (仲野ビル
5階)

T E L (0542) 45-2137 (代)



名古屋サービス・ステーション(営業所内)

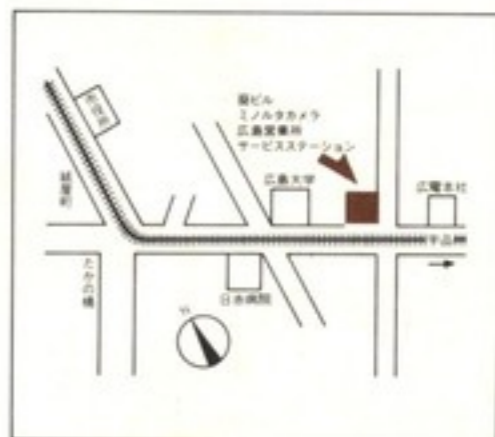
☎460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号
(ツボウチビル) T E L (052) 962-6761 (代)



広島サービス・ステーション(営業所内)

☎730 広島市東千田町1丁目3の13

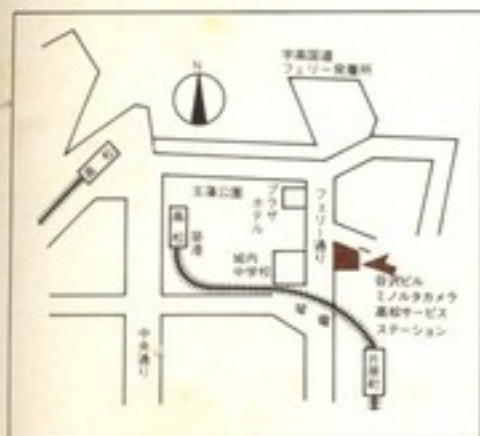
T E L (0822) 44-2322 (代)



高松サービス・ステーション(支所内)

☎760 高松市本町6-22-21 (谷沢ビル2階)

TEL (0878) 51-6239



福岡サービス・ステーション(営業所内)

☎812 福岡市博多区神屋町1番25号

TEL (092) 291-7823・7824



ニュージャージー

Minolta Corporation

101, Williams Drive

Ramsey, New Jersey 07446, U. S. A.

Tel:201/825-4000

シカゴ

Minolta Corporation

6666 North Lincoln Avenue,

Lincolnwood, Illinois 60645, U. S. A.

Tel:(312)675-7260

ロスアンゼルス

Minolta Corporation

3105 Lomita Boulevard Torrance,

California 90505, U. S. A.

Tel:(213)530-2022

アトランタ

Minolta Corporation

1434 Chattahoochee Avenue, N. W

Atlanta, Georgia 30318, U. S. A.

Tel:(404)351-9600

ハワイ

Movie Supply of Hawaii Ltd.,

770, Kapiolani Blvd.,

Honolulu, Hawaii 96813, U. S. A.

Tel:(808)533-1737

ハンブルグ

Minolta Camera

Handelsgesellschaft m.b.H.

2 Hamburg 1,

Spaldingstrasse 1,

West Germany,

Tel:HAMBURG 241386-89

ホンコン

Minolta Hong Kong Limited.

49 Chatham Road,

Kowloon Hong Kong

Tel:3-676051, 676056

Minolta

ミノルタカメラ株式会社

☎541 大阪市東区安土町2-30 (06)271-2251
(大阪国際ビル)

☎105 東京都港区浜松町2-4-1 (03)435-5511
(世界貿易センタービル)